

千葉県匝瑳郡光町
八石田遺跡発掘調査報告

1989.3

光町八石田遺跡調査会

序のことば

栗山川は下総と上総の国境を流れる二級河川であるが、流域は往古より先人の貴重な文化の足跡が遺されています。

また、工業団地造成にともない調査が行なわれた八石田遺跡は、栗山川の支流を眼下に抱く下総台地に位置し、私どもの祖先の生活を知るうえで、貴重な資料の宝庫とみられております。

故きを温ね新しきを知ることは、私たちへの教訓であり、文化遺産を保存伝承していくことは、私どもに課せられた責務ではありますが、開発と保護は、まだ幾多の問題が山積しているのが現状であります。

この報告書が学術資料としてはもとより郷土の理解と、文化財の保護、普及に広く活用戴けることを切に望むものであります。

終りに、本調査に当りいろいろと御指導を賜りました県文化課、直接調査にあられました調査員の方々、さらに関係各位に心から謝意を表する次第であります

平成元年3月

光町八石田遺跡調査会

目 次

序のことば

例 言

1. 遺跡の立地と環境	3
2. 調査経過	3
3. 遺 構	6
(1) 住居址	6
(2) 地下式土塚	6
(3) 溝	6
(4) 土塚	6
4. 遺 物	8
(1) 住居址出土遺物	9
(2) 地下式土塚出土遺物	11
(3) 溝出土遺物	11
(4) 陶器類	12
(5) 古 銭	12
5. まとめ	13

目 次

第1図	八石田遺跡と周辺の地形	4
第2図	八石田遺跡遺構分布図	5
第3図	第1号住居址及び出土遺物実測図	14
第4図	第2号住居址実測図	15
第5図	第5・6号住居址及び出土遺物実測図	16
第6図	第7・8号住居址及び出土遺物実測図	17
第7図	第9・11号住居址及び出土遺物実測図	18
第8図	第11号住居址出土遺物実測図	19
第9図	第11号住居址カマド・第12号住居址実測図	20
第10図	第13号住居址実測図	21
第11図	第13号住居址出土遺物実測図	22
第12図	第14号住居址及び出土遺物実測図	23
第13図	第15・18号住居址、第90・96号土壇実測図	24
第14図	第15号住居址出土遺物実測図	25
第15図	第16・27号住居址及び出土遺物実測図	26
第16図	第17号住居址、第19号住居址カマド実測図	27
第17図	第17・18号住居址出土遺物実測図	28
第18図	第19号住居址、第3号地下式土壇実測図	29
第19図	第20号住居址及び出土遺物実測図	30
第20図	第21号住居址及び出土遺物実測図	31
第21図	第22号住居址実測図	32
第22図	第22号住居址出土遺物実測図	33
第23図	第23号住居址実測図	34
第24図	第23号住居址出土遺物実測図	35
第25図	第24号住居址及び出土遺物実測図	36
第26図	第25号住居址及び出土遺物実測図	37
第27図	第26・28号住居址実測図	38
第28図	第26号住居址出土遺物	39
第29図	第1A・1B・第2号地下式土壇実測図	40
第30図	第1B号地下式土壇出土遺物実測図	41

第31図	第1B・3号地下式土坑出土遺物実測図	42
第32図	第2・3号溝実測図	43
第33図	第3号溝出土遺物実測図	44
第34図	第1・12・15・16・17・21・22・94号土坑実測図	45
第35図	第69・70・88・89・92号土坑及び70号土坑出土遺物実測図	46
第36図	東側土坑群実測図	47
第37図	その他の出土陶器類実測図	48

写真図版目次

図版1	上、遺跡遠景 中、遺跡遠景 下、調査風景
図版2	上、第1号住居址 中、第22号住居址 下、第24号住居址
図版3	上、第20号住居址 中、第19・20号住居址 下、第26号住居址
図版4	上、第1号溝 下左、第3号溝 下右、第5号溝
図版5	上、第1A・1B号地下式土坑 中、第21・22号土坑 下、第92号土坑
図版6	上、西側土坑群 中、第88号土坑 下、第69・70号土坑
図版7	上、第97号土坑 下、東側土坑群
図版8	上、第11号住居址遺物出土状態 中、第3号溝貝層遺物出土状態 下、第13号住居址カマド

例 言

1. 本書は、匠造郡光町八石田における光町による工業団地造成事業に先立つ埋蔵文化財の調査報告である。
2. 本調査は、八石田遺跡調査会が昭和63年6月7日から同年9月2日まで行なった。
3. 調査は、千葉県教育庁文化課、及び光町教育委員会の指導により、八石田遺跡調査会のもとに、下記の組織によって行なわれた。

会 長	椎 名 茂 道 (光町公民館長)
委 員	林 正 (文化財審議員)
	伊 橋 敏 郎 (文化財審議員)
事 務 局	橋 浦 芳 朗 (光町公民館長代理)
	伊 藤 美 智 代 (光町公民館主事)
調 査 員	新 井 和 之 (日本考古学研究所研究員、日本考古学協会会員)
調 査 補 助 員	加 川 泰 良 (日本考古学研究所研究員)

4. 調査整理作業は、調査団で行ない、図版作成及び執筆は新井が行なった。
5. 遺構実測図中の水系レベル上の数字は標高を表わし、遺物出土レベルは、床面に対して±0cmとし、文末に表示した。
6. 本調査の遂行にあたっては、多くの方々にご指導、ご鞭撻を頂き、感謝申し上げる次第であります。

1. 遺跡の立地と環境

今回調査を行なった千葉県匝瑳郡光町八石田遺跡は栗山川右岸の洪積台地上に立地している。周囲の低地は現在水田として使われているが、栗山川に面した地域は最近まで沼地であったと聞いている。河川改修の結果、水田に利用できるようになっていく。このように軟弱な地盤を裏書きするかの如く、この調査地点は北側が砂層、中央がチョコ帯、南側がローム層であった。これは褶曲により台地が傾斜しているためである。これを遺構の分布と重ねてみると、土壌や地下式土壌が主に砂層やチョコ帯に占地し、住居址がローム層の部分にあるのに気付く。この台地は北側から南側に傾斜しているため、住居址は斜面の下位面に固まり、重複していることになる。

本遺跡の対岸には戦国時代の城郭である篠本城が占地している。これは周囲が沼地か深い水田であることが戦時に守りやすい立地になったものと考えられる。本遺跡にも中世の遺構が発見されているが、これが直接関係あるとも無いとも言えないものの指呼間にほぼ同時期の城郭があることのみ指摘しておきたい。

さらに古くは小川台遺跡(註1)・小川台古墳(註2)・宝米6号墳(註3)等の発掘調査が行なわれていてそれなりに注目されていた地域に立地する遺跡でもある。最近では独木船が多く出土することでも知られている地域であるが、特に小川台遺跡でも本遺跡と同じ時期の集落を調査しているので古墳との関連を含め注目される。

註1 青木幸一他「千葉県匝瑳郡光町 小川台遺跡発掘調査報告書」 光町小川台遺跡調査会 1987

註2 滝口 宏他「下総小川台古墳群」 八咫教育委員会 小川台古墳群調査団 1975

註3 杉山晋作「宝米六号墳石室調査報告」 金鈴20号 1967

なお遺跡位置図は下記の分布地図より転載した。

林勝則他「千葉県光町埋蔵文化財分布地図」 光町教育委員会 1986

2. 調査経過

本遺跡は1988年6月7日に杭打ちを始めて確認調査を行ない6月16日には確認調査を終了した。6月17日からブルドーザ1台とユンボ1台により表土削ぎを始めた。6月20日から再び調査補助員を入れて遺構確認を行なう。6月23日から遺構の調査に入った。重機による表土削ぎは7月2日に終わり、遺構の調査は続けて行なうが、例年になく雨降りの日が多く、7月、8月にもその傾向が続き、調査は大幅に遅れた。

調査が終了したのは9月2日のことであった。その後9月5日及び8日に地元小学生を招き、現地説明会を行なったが説明会は好評のうちに無事終了した。

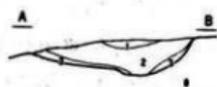
- | | | | | |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 5. 寒風城跡 | 19. 宝米遺跡 | 23. 要宮台城跡 | 27. 新台遺跡 | 31. 城ノ台塚 |
| 6. 城ノ台古墳 | 20. 宝米城跡 | 24. 夏台遺跡 | 28. 城山遺跡 | 32. 神山古遺跡 |
| 7. 飯本城跡 | 21. 宝米古墳群 | 25. 櫻切遺跡 | 29. 神山谷遺跡 | 33. 谷津遺跡 |
| 8. 夏台古墳 | 22. 二又遺跡 | 26. 八石田遺跡 | 30. 城ノ台遺跡 | |



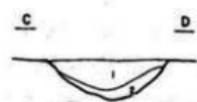
八石田遺跡と周辺の遺跡



(第1圖) 八石田遺跡と周辺の地形



第1号溝断面図



第6号溝断面図

〔第1号溝土層説明〕

1. 褐色土：砂粒が主体となる。
2. 褐色土：砂粒を主体に焼土粒子を多量に含む。
3. 茶褐色土：チャコ層の2次埋積と思われる。
やや粘性が強い。

〔第6号溝土層説明〕

1. 茶褐色土：ローム粒、焼土粒を多く含む。
2. 黄褐色土：ロームの2次埋積。

〔第2図〕八石田遺跡遺構分布図

3. 遺 構

(1) 住居址

住居址の番号は28まで付けたが、第3号・4号・10号の3軒は欠番とした。これは土壇や中世の土壇群になり住居址にならなかったためである。特に第4号住居址とした地点は平面プランでは、まるで住居址が重複している様に見えた。掘りすすむに連れて土壇群であることに気付いたものである。つまり台地整形をした後に土壇群を形成しているので住居址のプランと間違えたものである。第3号住居址も当初確認図では隅丸方形であったので住居址番号を付けたものの最終的には楕円形プランの深さ60cm程の土壇になった。第10号住居址は掘立柱建物址と思われる第13号住居址東側に想定したが、検討した結果欠番とした。(住居址一覧参照)

(2) 地下式土壇

第1、第2号の地下式土壇は第1号溝で繋がっている。これは第1号溝が参道のような機能をしていたのであろうか。

(3) 溝

第1、7、8、9号溝は浅い上に、立ち上がりも不明瞭であり、地境とか道路等の性格が強い。特に第8、9号溝は、浅い上に良く踏み固められている面と軟弱な面が互層になっているので、道路の性格が強い。

第2、3、4、5号溝は特に底面が平坦で掘込みが明瞭であり、特に第3～5号溝は深く、第3号溝は深さ約150cm程になった。また、第5号溝も1m以上の深さがある。

平面図の上で気付くのは、第2、3、5、6号の各溝がほぼ平行して走っていることである。これらは出土遺物の上からは中世の所産であるので何らかの関係を想定できる。

第3号溝は合計3ヶ所の貝層が発見されている。そのうち最も大型のブロックである第1貝層は、ダンベイキサゴ7,679個、オオタニシ2,400個、ハマグリ170個(左右合計)、シジミ111個(左右合計)、が出土した。貝層に混じって内耳土器が出土した。これらは固い面の上に埋積しているので道路としての機能が無くなった後に貝層を形成したことになる。

(4) 土壇

合計98個の土壇を調査したが、紙面の都合により特徴的なものを図示した(第34図～第35図)。

第1、21、22、94号土壇は床から壁にかけて粘土を貼ったものである。第1、94号土壇は粘土の貼っていない部分がある一方で、第21、22号土壇は、それに対して何れも10cm～20cmの厚さで密に施され、しかも重複している。

第34図の第12・15・16・17号土壇計4基はチョコ帯から粘土層に形成された土壇群で、第2号住居址を破壊している。これらは連結して形成する。特に第12号土壇は砂が覆土となっている。この砂は山砂である。

住 居 址 一 覧 表

住居No	時 期	規 模 縦×横・深さ	主 軸	保存状態	カマド法量	柱 穴	貯 蔵 穴	周 溝	備 考 (重複関係)	
1	8世紀	3.84×4.15	北西	一部破壊	1.02×1.15	4		有	保存は悪く、遺物は少ない。	
2	7世紀		北東	一部残存				有	中世の土域群により切られている。	
3	中 世		欠						住居地ではなくて、中世の楕円形遺構。	
4	中 世		欠						中世の土域群になる。	
5	不 明	—×—	—23	南北	コーナーのみ	—×—			第4溝に切られる。	
6	8-9世紀	4.15	—22	北東	西側のみ	—×—	11		建て直しか? 擾乱が著しい。	
7	5世紀	—×—		北北東	コーナーのみ	—×—	1		道路や3溝で切られる。	
8		3.86×3.68	—18		約骨を調査	—×—	5	有	第3溝、第3地下式土域に切られる。	
9	8世紀	不 明		北北東	約骨を調査	—×—	2	有	建て直し、3溝に切られる。	
10			欠							
11	8世紀	—×5.50	—35	北東	約骨を調査	98×1.27	4	有	建て直しあり、7溝に切られる。	
12	8-9世紀	5.42×5.62	—30	北東	擾乱顕著	91×—	5	有	遺物もほとんど出土しない。	
13	8世紀	—×—	—95	西北西	約骨を調査	1.16×86	3	有	擾乱顕著。南側は斜面にかか。	
14	7世紀	5.08×5.04	—22	北西	約骨を調査	1.48×98	5	有	擾乱が著しく3溝、27住に切れ97域を切る	
15	8世紀	4.74×4.02	—68	北北西	約骨を調査	1.53×1.07	6	有	90、96土域、18住を切り第5溝に切られる。	
16	8-9世紀	3.53×3.56	—66	北東	完存	1.12×90	5	有	27住を切っている。	
17	8世紀	4.60×4.10	—28	北東	完存	1.13×1.17	5	有	19住を貼って形成している。	
18	7-8世紀	3.55×—	—45	北西	約骨を調査	—×—	1	有	15住、5溝に切られる。	
19	7世紀	6.25×6.15	—40	北北東	完存	90×1.01	9	1	有	17住、地下式域、14域に切れ、96域を切る。
20	8-9世紀	4.54×4.10	—42	北東	ほぼ完存	98×1.08		有	21住を切り、22住、8号溝に切られる。	
21	8世紀	4.72×4.29	—28	南北	約骨を調査		5	有	20、22住及び8号溝に切られる。	
22	8世紀	5.08×5.04	—48	南北	約骨を調査	1.15×89	4	有	20、21住を切り、23住に切られる。	
23	8世紀	3.90×4.12	—45	北北東	完存	1.12×1.18	5	有	22住26住を切っている。	
24	8世紀	3.80×3.60	—45	北北西	不良	2.18×2.20	4	有	5溝に切られている。	
25	8世紀	2.90×—	—22	北東	約骨を調査	—×—		有	4溝に切られる。	
26	6世紀	7.14×6.84	—46	北北西		(伊)60×56	3	1	有	28住を切り、24住、5溝に切られている。
27	6-8世紀	4.48×—	—70	北東	約骨を調査	—×—		有	主要部を16住で壊されている。	
28	5-6世紀	—×2.95	—0	東南東	周溝柱穴のみ	50×44	4	有	住居地の痕跡のみ、28住と完全に重なる。	

地 下 式 土 域

No	時 期	規 模	主 軸	保存状態	備 考	
1A	中 世	2.95×1.75	—1.52	西北西	良 好	1Bに切れ、第1溝にも切られる。
1B	中 世	3.90×1.98	—1.84	西北西	良 好	天井部が残り、張り出しがある。人骨・動物遺存体出土。
2	中 世	3.17×2.10	—2.68	北 西	不 良	第1号溝に切られている。
3	中 世	3.12×3.12	—1.56	西北西	不 良	8号住、19号住を切って構築している。

第35図の第69、70、88、89号の4基も接近して形成されていて、第69、88号土壇は人骨が残っていた。中世の人骨が残っていると言うのも筆者には疑問であるが、ここでは地下式土壇の中にも骨が残っていたので証左かも知れない。特に第69号土壇には頭部から歯の付いた顎骨が出土している。第35図の第92号土壇は形態から縄文時代の陥し穴である。同様の土壇は他に第96、97号土壇がある。

第36図に示した東側土壇群は、調査経過で述べた通り、発見時には巨大な落ち込みであった。これらは建物址である可能性も否定できないが、並び方が不自然であり墓塚群と考えた。その中でもC-Dに示したエレベーションの北側は確認面が粘土かチョコ帯であり、南側はローム面であった。セクションベルトC-Dには浅い窪地が認められ、さらにそれを埋めて貼床のような面が認められた。チョコ帯に形成された土壇は覆土が確認面と同じ色調であり、断面図を作るのが難しく最終的に断念した。南側のローム面での土壇は、ローム粒やロームブロックを多く含んでいた。

4. 遺物

遺構のほとんどが重複し合っていたことに関しては、先にふれた通り、ローム層の発達が見られるところに住居址、粘土層の部分や砂層に墓塚が造られていた。このように台地斜面に住居址が立地するのは光町内の小川台遺跡にも同様の現象が見られた事を思い起こさねばならない。小川台遺跡は8～9世紀を中心とする住居址の調査が行なわれたが、八石田遺跡では5世紀1軒、6・7世紀が7軒あり、小川台遺跡より古くから集落が営まれている。ここで重視したいのは8世紀になってからの住居址が増加していることである。これを持って国策で、人間を動かした計画集落の一端とは結び付くとは思えないが、8世紀と言う時期に安定した生産の基礎を固めたことが理解できる。

この時期は、北総台地では竪穴住居址からの出土遺物が少なく、特に8世紀前半のものは遺物の少ない住居址が多いとされている。このような点から、県内の遺跡の類似点として、指摘できるのであるが、第22号住居址は比較的土器の出土量が多く、好資料である。その中で注目されるのは、10の灰輪陶器(第22図)と、9の暗文のある杯(第22図)である。やや雑な作り方に思えるが、丸底の杯より平底の杯へ移行する要素を内に含むとも、暗文のある搬入品を真似たものと考えられる。本遺跡には、6～9世紀を通して、土師器が多く須恵器が少ないのも特長であるが、焼成不良の須恵器は見当らず、くすべ焼きの土器も少なく図示できたものは第11号住居址の7が1点のみである。このことは須恵器、くすべ焼きの生産地に遠いのと、その流通ルートに乗らなかったのが原因としてあげられる。それだけに第22号住居址の10は、より注目を集めてしまう。

第17号住居址には墨書土器が出土した。2点出土したが、8の「上」、文字不詳の9があるが、実はこの他にも第17号住居址からは墨書土器が2点出土している。何れも「真」字であったと記述している。この2点は不幸にも盗難にあい、図示できないが、文字不詳の9が「真」である可能性は高いと思う。

(1) 住居址出土遺物(1)

住居No.	遺物No.	器種	法量 単位cm	形 態 の 特 徴	整 形 の 特 徴
			口径×底径×残高		
1	3図1	土師器杯	14.6×—× 3.4	丸底で線を持ち、内折する	外面はヘラケズリ、口辺と内面はナデ。
	2	土師高杯	13.0×— 3.0	外線を持ち外反する	内外面共ヘラミガキ。
	3	紡錘車	推定半径1.6×1.4	楕円形を呈する半欠品	外面ヘラケズリ。
6	5図1	須恵器壺	30.8×—× 8.0	折り返し口縁で外反する	ロクロ水遣き手法。
7	6図1	土師高杯	19.3×—× 4.2	外線を持ち外反する	内外共ナデを行ない、ヘラミガキを施す。
	2	土師高杯	—×14.5×15.0	線を持ち次第にすばまって行く	内面に輪積み痕を残す、外面ヘラミガキ。
9	7図1	須恵器杯	—× 9.8× 2.8	高台杯で高台部は外反している	ロクロ水遣き手法で製作、焼成良好。
11	8図1	土師器壺	22.0×—× 21.9	頸部で括れが著しく急に外反	外面胴部ヘラケズリ、頸部と内面ナデ。
	2	土師器壺	—× 6.6×11.6	頸部で括れ口縁部は凹線状になる	外面胴部ヘラケズリ、口辺部内面ナデ。
	3	土師器壺	12.2×—× 4.3	やや胴が短かく括れは弱い	外面下半ヘラケズリ、口辺・内面ナデ。
	4	土師器杯	—× 7.4× 3.0	底部から線を持ち外反する	底部は糸切り後周辺部ヘラケズリ。
	5	土師器杯	—× 8.5× 3.2	ロクロ成形、やや粗雑な作り	糸切り後無調整・胴部下端ヘラケズリ。
	6	須恵器壺	16.3×—× 2.4	ロクロ成形後内面ナデ	返りは持たず、やや平面的。
	7	くすべ杯	11.4× 8.3× 4.6	底部から内寄気味に立ち上がる	底部は切り放し後全面ヘラケズリ。
	8	須恵器壺	—×23.6×16.5	内寄気味に立ち上がる	底部はタタキ目を全面に施す。
13	11図1	土師器壺	20.2×—× 21.9	やや長胴気味で頸部は括れ弱い	括れ部分で傾位、胴部は斜位にヘラケズリ。
	2	土師器壺	15.2×—× 15.9	長胴気味で頸部の括れは弱い	ヘラケズリが斜位の真方向に残される。
	3	土師器壺	17.6×—× 8.1	括れは弱く口縁外面に凹線	外面・内面共にナデ、内面に横ヘラケズリ。
	4	土師器杯	14.0×—× 3.5	丸底で浅く立ち上がる	外面ヘラケズリ、内面ナデ。
	5	土師器杯	14.0×—× 4.2	丸底で丸味が強い	外面ヘラケズリ、口辺部・内面ナデ。
	6	土師器杯	11.8×—× 3.8	外線をわずかに持ち丸底	外面ヘラケズリ口辺内面ナデ、黒色塗彩(塗)
	7	土師器杯	11.2×—× 3.9	外線を持ち丸底、口縁外反	外面ヘラケズリ、口辺内面ナデ。
	8	磁石	7.2× 4.7× 6.5	不整形を呈する	砂岩製磁石である。
14	12図1	土師器壺	16.9×—× 15.5	胴長気味で括れ部強い	外面上半縦位下半斜位ヘラケズリ。
	2	土師器壺	14.8×—× 10.5	胴長気味でコの字状口縁を持つ	外面輪積み痕残し胴部ヘラケズリ内面口縁ナデ。
	3	土師器杯	11.8×—× 4.6	外線を持ち口縁内反する	外面ヘラケズリ、口縁内面ナデ。
	4	土師器杯	14.9×—× 3.3	外線を持ち外反下半ヘラケズリ	内面黒色処理。
15	14図1	土師器壺	12.8×—× 4.0	括れ弱く外面下半ヘラケズリ	内面指環状残す。
	2	土師器杯	14.0×—× 3.0	丸底で外面に線をもち	外面ヘラケズリ、内面・口縁外面ナデ。
	3	土師器杯	14.8×—× 3.0	平底気味の丸底口縁内面ナデ	
	4	磁石	5.0× 1.5— 3.8	バチ型を呈し紐を通す孔を持つ	凝灰岩製の磁石。
16	15図1	土師器壺	16.9×—× 9.3	口縁部に凹線をもち括れ弱い	外面胴部ヘラケズリ、口縁内面ナデ。
	2	土師器壺	18.2×—× 6.6	1に比べ口縁の沈線明確	外面括れ部のみヘラケズリ、内外面ナデ。
	3	研磨器	5.4× 5.3× 1.5	不整形の土器片利用の研磨器	壺の頸部外面に糸を数条持っている。

住居址出土遺物(2)

住居 No	遺物No	器 種	法量 単位cm	形 態 の 特 徴	整 形 の 特 徴
			口径×底径×高さ		
16	15図 4	磁石	4.3× 2.6× 1.2	砂岩製の磁石	中央部の括れる磁形。
17	17図 1	土師器甕	20.2×—× 13.3	括れ部弱く口縁に凹線。	胴部下半位へラケズリ内面口辺ナデ。
	2	土師器甕	16.3×—× 5.9	コの字状に近い頸部口縁に凹線。	内面口縁ナデ外面へラケズリ内面口辺ナデ。
	3	土師器甕	12.1×—× 5.5	強く括れ外反して行き高くなる。	外面口辺へラケズリ位位、胴部内外面ナデ。
	4	土師器杯	13.7× 3.4× 8.7	平底で内湾気味に立ち上がる。	底部全面手持へラケズリ、外面へラケズリ。
	5	くすへ杯	11.0× 6.2× 4.2	平底で内湾気味に立ち上がる。	底部へラ切り後無調整、内外面ナデ。
	6	土師器杯	—× 7.8× 3.5	底部から急速に立ち上がる。	底部全面手持へラケズリ。
	7	土師器杯	10.7× 4.3× 7.3	外面指類によるロクロ痕顯著。	底部永切り後周辺部へラケズリ。
	8	土師器杯	—× 7.5× 3.4	内外面指によるロクロ痕顯著。	「上」の墨書が底部に有る。
	9	土師器杯	—	永切り後周辺部へラケズリ。	文字不明の墨書が底部に有る。
	10	横造品	2.6× 2.1× 0.3	楕円形で中央に孔を持つ。	質の悪い滑石製。
18	17図 11	土師器瓶	36.6×—× 7.0	長胴で大きく外反している。	口辺内面ナデ外面胴部へラケズリ。
	12	土師器甕	14.0×—× 5.1	頸部括れ著るしく口縁に凹線。	胴部へラケズリ。
	13	土製管玉	2.3× 1.5×—	不整長楕円形を呈する。	表面にへラケズリ痕を持ち造りが粗雑。
20	19図 1	土師器杯	11.8×—× 4.7	外面に横を持ち先底を呈する。	内外面共にナデ。
	2	土師器杯	—× 8.0× 2.3	底部から急速に立ち上がる。	底部へラミガキ内面黒色処理。
21	20図 1	土師器甕	20.0×—× 3.6	外反し口縁に凹線を持つ。	内外面共にナデ。
	2	刀子	刃部幅 1cm	細身の刀子で一部に木質が付着。	刃部が欠けているが同一個体であろう。
	3	支脚	17.3× 7.8×—	やや斜な作り方で下端部を欠く。	外面にへラケズリ痕を残す。
22	22図 1	土師器甕	20.0×—× 5.6	括れが弱く外反している。	胴部内外面へラケズリ口辺内外面ナデ。
	2	土師器甕	14.2×—× 7.3	括れ部がコの字状に近い。	胴部外面へラケズリ外面口辺輪横痕。
	3	土師器杯	16.4×—× 3.3	急速に閉きながら内湾して行く。	外面にへラケズリ痕を残し内外面赤色塗彩。
	4	土師器杯	14.8×—× 3.8	丸底でわずかな外縁を持つ。	外面にへラケズリ、内面ナデ。
	5	土師器杯	14.8×—× 3.5	若干の外縁を持ち内湾。	外面へラケズリ、内面ナデ。
	6	土師器杯	13.8×—× 3.3	丸底で外縁を持ち急速に内湾。	外面へラケズリ、内面ナデ。
	7	土師器杯	13.4×—× 3.7	丸底で外縁を持ち内湾する。	口縁部付近まで外面へラケズリ内面ナデ。
	8	土師器杯	12.0×—× 3.6	平底に近い丸底で内湾し立ち上る。	外面へラケズリ内面ナデ。
	9	土師器杯	11.6× 6.1× 3.9	平底から内湾し立ち上がる。	外面へラケズリ内面暗文を持ち底部へラケズリ。
	10	灰桶杯	17.2× 12.4× 5.5	台付杯で高台は台形を呈する。	内外面ロクロ痕、底部へラ記号を持つ。
23	24図 1	土師器甕	19.0×—× 8.0	括れ強く外反し口縁に移行。	口辺部に輪横痕、口縁に凹線を持つ。
	2	土師器甕	18.8×—× 5.8	外反し口縁に移行、括れが強い。	口縁に凹線を持ち、口辺部に輪横痕を持つ。
	3	土師器甕	14.8×—× 4.8	括れ弱く外反し内面に凹線。	輪横痕を外面に残し、内面に沈線を持つ。
	4	土師器甕	14.6×—× 5.0	口縁内外面に沈線を持つ。	外面に輪横痕を持ち括れは弱い。
	5	土師器甕	15.2×—× 6.2	括れは弱く外反して行く。	外面へラケズリ、口縁内面ナデ。
	6	土師器杯	17.0× 5.0× 11.6	広い底部から内湾しつつ立ち上る。	外面へラケズリ、内面ナデ、底部へラケズリ。
	7	くすへ杯	12.2× 8.0× 3.8	底部から内湾しつつ立ち上がり外反。	口辺部やや肥厚、底部切りはなし後へラケズリ。
	8	土師器杯	12.4×—× 3.8	丸底気味に内湾しつつ立ち上がる。	外面と内面上半へラケズリ、内面下半ナデ。

住居址出土遺物(3)

住居No.	遺物No.	器種	量量 単位cm 口径×底径×高さ	形態の特徴	整形の特徴
23	9	土師器杯	12.0×—× 4.1	口縁直を打ち底部丸底状を呈す。	外面ヘラケズリ内面ナデ、底部ヘラケズリ。
	10	砥石	7.3× 4.0— 1.2	不整形を呈し数条の傷を持つ面と平坦な面を持つ凝灰岩製。	
24	25図1	土師器壺	16.4×—× 4.5	頸部で丸味を帯びて括れ外反。	口縁外面凹縁を持つ胴下半ヘラケズリ口縁ナデ。
	2	土師器壺	13.0×—× 3.2	頸部で括れ外反、口縁立上がる。	内外面ナデ。
	3	土師器杯	14.0×—× 3.3	丸底で内湾し立上がる。	外面ヘラケズリ、内面暗文を持つ。
	4	土師器杯	12.6× 6.0× 3.9	丸底で内湾し作りが悪い。	外面ヘラケズリ、内面ナデ。
	5	土師器杯	12.8× 6.9× 3.3	平底で急に立上がり口縁で内湾。	内外面にヘラケズリ内面上半ナデ。
	6	土師器杯	—× 7.6× 1.6	底部のみ。	底部静止未切り周辺部ヘラケズリ。
25	26図1	須恵器杯	18.0×—× 2.3	頸部で括れ外反し口縁に凹縁。	ロクロ水遣き。
	2	土師器杯	12.6×—× 2.9	内湾しながら立ち上がる。	外面ヘラケズリ、内面ナデ。
26	28図1	土師器壺	19.4× 7.2× 29.0	胴がふくらむ長胴腹左右非対称。	外面ヘラケズリ口縁内面ナデ。
	2	土師器壺	17.0× 5.8× 19.0	広口気味の小型の壺で括れ弱い。	外面ヘラケズリ口縁内面ナデ。
	3	高杯脚部	—×—× 7.4	左右非対称で外面にヘラケズリ。	造りが著しく粗雑。
	4	高杯脚部	—×—× 5.4	底部から連結部へすぼまる。	外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリ。
	5	磨石	8.3× 6.8× 3.4	楕円形を呈し端部打欠く。	平坦部及び周囲に使用痕

(2) 地下式土坑出土遺物

No.	遺物No.	器種	量量 単位cm	形態の特徴	時期	生産地
			口径×底径×高さ			
1B	30図1	石製鉢	—× 18.0× 7.6	底部のみで砂炭製底部付近に整形痕を残す。		—
	2	石塔破片	11.6× 7.6× 13.8	やや不整形に近い楕円の胴部に整形痕を残した突起を加える。		—
	3	元符通宝	銭経2.41cm穿経0.67cm字厚1.18mm銭厚0.96mm重さ2.4g			宋(1098)
	31図1	本腹	35.0×—× 7.0	内外面に鉄輪がかけられていて、折り返し口縁を持つ。	15~16C	常滑
	2	こね鉢	32.5×—× 10.0	口縁部に2条の沈線を持ち、胴部にヘラケズリ痕を残す。	15~16C	常滑
3	31図3	高杯脚部	—× 12.4× 8.8	底部から段を持ち内湾しながら立ち上がる。	古墳時代	土師器
	4	燈明皿	11.2× 4.1× 2.9	底部から段を持ち、開いて行く。底部は未切りで切り放し。	中世	地方
	5	こね鉢	33.0× 13.0× 7.5	底部に突起を加える素地は淡茶色で淡緑色の釉がかかる。	15~16C	美濃

(3) 溝出土遺物

No.	遺物No.	器種	量量 単位cm	形態の特徴	時期	生産地
			口径×底径×高さ			
3	33図1	内耳土器	36.0× 14.4× 15.0	2個一対の把手と、それを支える把手の計3個の把手を持つ。	15~16C	地方
	2	内耳土器	36.6×—× 13.2	1とはほぼ同様の形態で、1と同様内外面にスス付着。	15~16C	地方
	3	おろし皿	14.2×—× 3.3	素地はクリーム色で淡緑色の釉がかかる。貝層上より出土。	15~16C	瀬戸
	4	香炉	10.0×—× 1.8	素地は乳白色で青色の釉が内外面にかかる。	15C	肥前
	5	青磁碗	—× 6.3× 1.4	高台を持ち、内外面に厚い青色の釉をかける。素地は乳白色。	17C	肥前

(4) 陶器類

出土位置	遺物No	器種	口径×底径×高さ	形態の特徴	時期	生産地
第70土坑	35図1	高杯	—×14.2×10.2	接合部から内湾しながらすばまり、急激に開く。	6C	土師器
第10土坑	36図1	鉢	—×—×—	外壁を持ち、内湾しながら開いて行く。	17C	美濃
6D-c	2	鉢	17.0×9.2×5.5	口縁内面に線を施し、釉は施されていない。	16C	地方
4G-b	3	壺	14.8×—×9.4	球形に近い胴部から立ち上がり折り返し口縁を持ち蓋地。	15-16C	常滑
第23土坑	4	土瓶	—×—×—	注口内面に2個の孔を持ち、乳白色の釉を施す。	19C	地方
第78土坑	5	鉄輪皿	10.4×—×2.3	口縁部内外面に褐色の釉を施す蓋地は淡茶色。	16-17C	東海?
4F-b	6	天目茶碗	13.0×4.6×7.0	蓋地は淡茶色を呈し、内外面に鉄輪がかかる。	17C	美濃
3E-b	7	中国浙江省電泉系青磁蓮弁文碗		灰色がかった青い釉を施し、蓋地は乳白色。	14C	中国

(5) 古銭

本遺跡からは合計17枚の古銭が出土した。これらは保存状態が悪く、図示できたものは地下式土坑1Bから出土した元符通宝1点のみであった。以下一覧表に出土した古銭を示すのみに留めたい。

No	出土地点	銭種	外径 (cm)	内径 (cm)	厚さ (字) (mm)	厚さ (銭) (mm)	重量 (g)	初傳年代・生産地
1	第10号土坑	聖宋元宝	2.41	0.62	1.33	1.28	2.2	本邦銭
2	第10号土坑	祥符通宝	2.55	0.59	1.66	1.54	3.2	宋(1008)
3	第10号土坑	元豐通宝	2.49	0.69	1.29	1.24	2.6	本邦銭
4	第10号土坑	皇宋通宝	2.48	0.64				2枚、4・5密著
5	第10号土坑	?						
6	第3号溝	聖宋元宝	2.42	0.65	1.60	1.25	2.7	本邦模銭
7	第3号溝	景徳元宝	2.50	0.59	1.56	1.15	3.7	宋(1004)
8	第3号上の貝層No18	皇宋通宝	2.52	0.70	1.14	0.84	2.7	宋(1037)
9	第3号溝	□元□□か□□元□	2.70	0.78	1.24	1.04	3.1	※△は本邦銭可能性あり
10		廣元通宝の可能性あるが不明						本邦銭
11	第3号溝貝層中	平銭	2.20		1.30		3.1	明治17年
12	第4号溝	不明(鉄銭)						
13	第4号溝	皇宋通宝	2.32	0.71	1.65	1.35	2.5	宋(1037)
14	第3号住北側	元豐通宝	2.39	0.64	1.72	1.35	2.5	本邦銭?
15	4E-b	供武通宝	2.22	0.58	1.49	1.29	2.2	明(1368)
16	3E-d	(開)元通宝						唐(621)

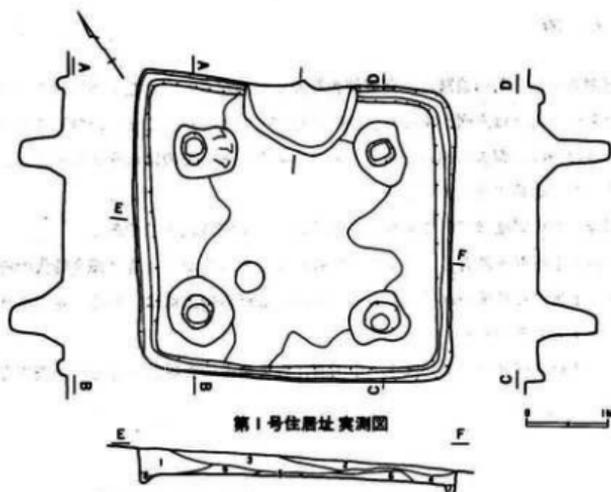
(8) ま と め

今回発掘調査した八石田遺跡は、発掘調査期間中に雨が多く、また大規模の上に掘り込みの深いものが多いと言う難達構が重なり、期間が延びてしまった。こうした難局を乗り切り、調査を終了できたのは、調査に関った多くの方々の協力があつたのは言うまでもない。逐一お名前は記さないが、感謝の意を表したい。

ここで調査した住居址は25軒であり、古墳時代から平安時代までである。

中世では溝と土埴群を調査した。土埴は合計97基であつたが、3基は縄文時代の所産であるが、他は主に中世に作り使われていたものである。これらの土埴は、ある一定のエリア内にブロックを形成するものである。

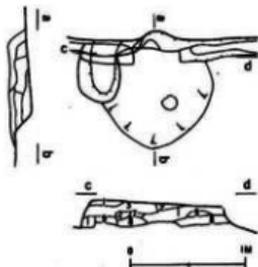
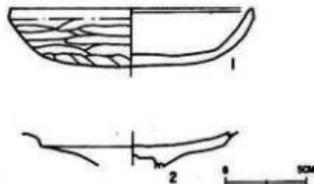
遺物として注目すべきは、第36図7の中国浙江省電泉系の青磁蓮弁文碗が小破片ながら注目できる。



第1号住居址実測図

【第1号住居址土層説明】

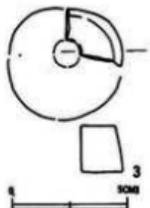
1. 黒褐色土：粘性があり、少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土：ローム粒、ロームブロックを多量に含む。
3. 黒褐色土：ローム粒が多く、焼土粒、木炭粒を含む。
4. 褐色土：ロームブロックを少量含む。
5. 暗褐色土：砂粒が多く、ロームブロック、焼土ブロックを含む。
6. 灰褐色土：ロームブロックを主にした層。
7. 褐色土：ローム粒が多い。
8. 暗褐色土：ロームを主にして、褐色土の粒子を含む。



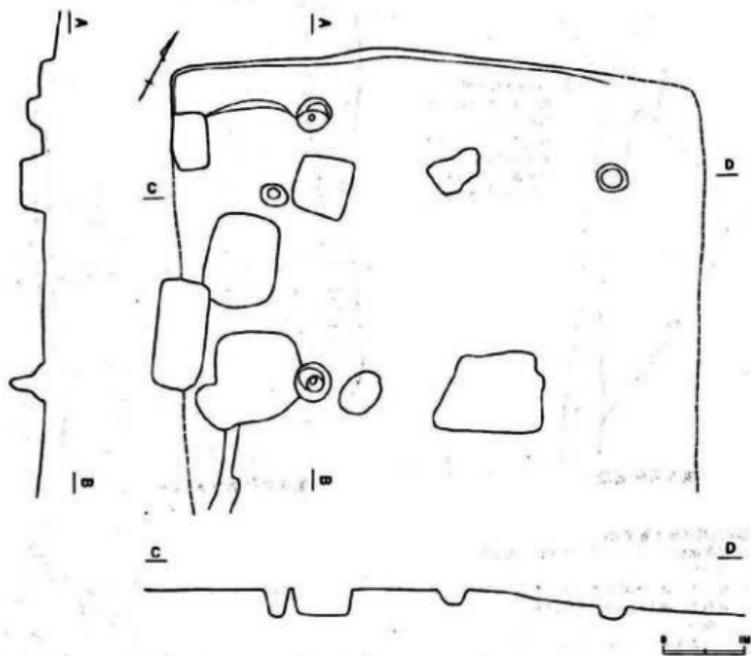
第1号住居址カマド実測図

【第1号住居址カマド土層説明】

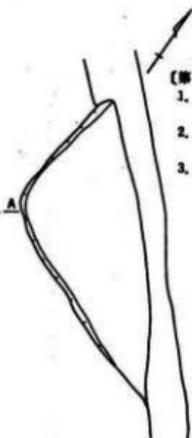
1. 暗褐色土：ローム粒が多い。
2. 暗褐色土：ローム粒と山砂が多い。
3. 褐色土：山砂、褐色土、焼土粒を含む。
4. 褐色土：焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。
5. 暗褐色土：砂粒、焼土ブロック、ローム粒を含む。
6. 黒褐色土：炭化粒が多く、ローム粒、焼土粒を含む。
7. 暗褐色土：ローム粒、黒色土を含む。
8. 暗褐色土：ローム粒、山砂を含む。
9. 灰褐色土：ローム粒、粒土粒、山砂を含む。



(第3図) 第1号住居址及び出土遺物実測図



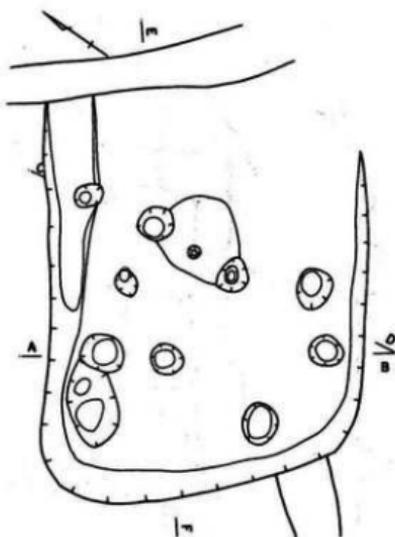
(第4图) 第2号住居址平面图



第5号住居址

【第5号住居址土層説明】

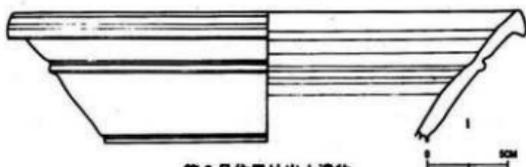
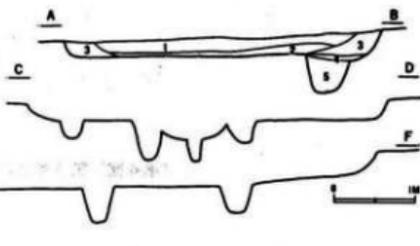
1. 褐色土：焼土粒、木炭粒を含む。
2. 褐色土：ローム粒をおおずかに含む。
3. 暗褐色土：木炭粒、ローム粒を多く含む。



第6号住居址実測図

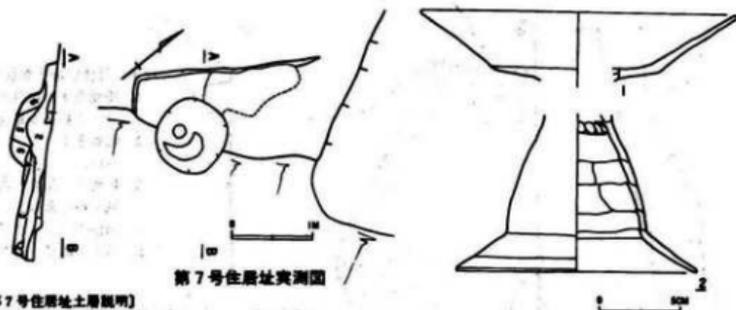
【第6号住居址土層説明】

1. 淡茶褐色土：ローム粒、木炭粒、焼土粒を含む。
2. 褐色土：ローム粒が1に比べ多い。
3. 褐色土：焼土粒、ローム粒が多く、粘性が高い。
4. ロームを主にした粘り床らしい面。
5. 黒褐色土：ローム粒、木炭粒を多く含む。



第6号住居址出土遺物

(第5図) 第5、6号住居址及び出土遺物実測図



第7号住居址実測図

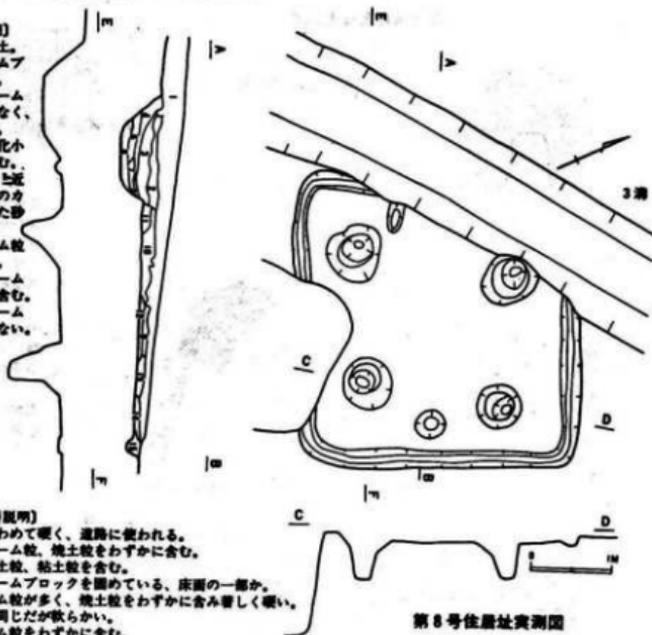
第7号住居址出土遺物実測図

【第7号住居址土層説明】

1. 暗褐色土：硬く、粘性があり、ローム粒は少ない。
2. 暗褐色土とローム層が3cm-5cmで互層になる硬軟な層。
3. 黄褐色土：ロームの2次埋積の層。
4. 黒褐色土：ローム粒を少量含む。
5. 褐色土：ローム粒を少量含む。
6. 暗褐色土：硬質で粘性があり、ロームブロックを含む。
7. 暗褐色土：軟らかく粘性を持ち、ローム粒を含む。

【第3号土層説明】

1. 褐色土：耕作土。
2. 褐色土：ロームブロックが多い。
3. 黒褐色土：ロームブロックは少なく、焼土粒を含む。
4. 暗褐色土：炭化小粒子を多く含む。
5. 黒褐色土：3と近いが、8号住居のカマドより流れた砂粒が多い。
6. 褐色土：ローム粒が多く、硬い。
7. 黒褐色土：ローム粒をわずかに含む。
8. 黒褐色土：ローム粒は7より少ない。

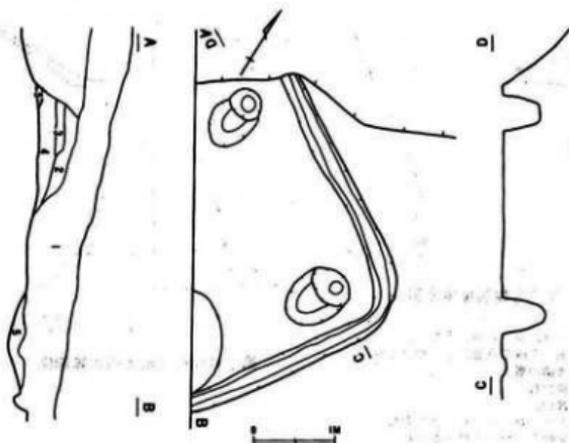


【第8号住居址土層説明】

9. 暗褐色土：きわめて硬く、道路に使われる。
10. 黒褐色土：ローム粒、焼土粒をわずかに含む。
11. 淡褐色土：焼土粒、粘土粒を含む。
12. 黄褐色土：ロームブロックを囲んでいる、床面の一部か。
13. 褐色土：ローム粒が多く、焼土粒をわずかに含む。
14. 褐色土：13と同じだが軟らかい。
15. 褐色土：ローム粒をわずかに含む。

第8号住居址実測図

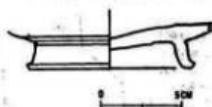
(第6圖) 第7・8号住居址及び出土遺物実測図



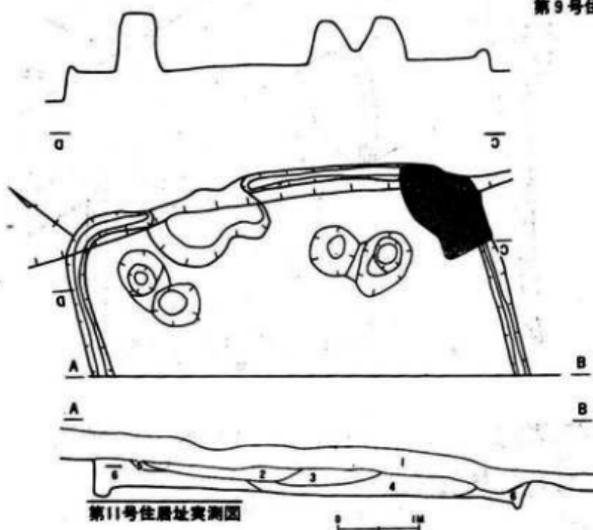
第9号住居址実測図

【第9号住居址土層説明】

1. 暗褐色土：粘性があり
ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土：ローム粒が
多い。
3. 褐色土：粘性があり、
粘土粒を含む。
4. 山砂のブロック。
5. 粘土と山砂の混じる層。



第9号住居址出土遺物

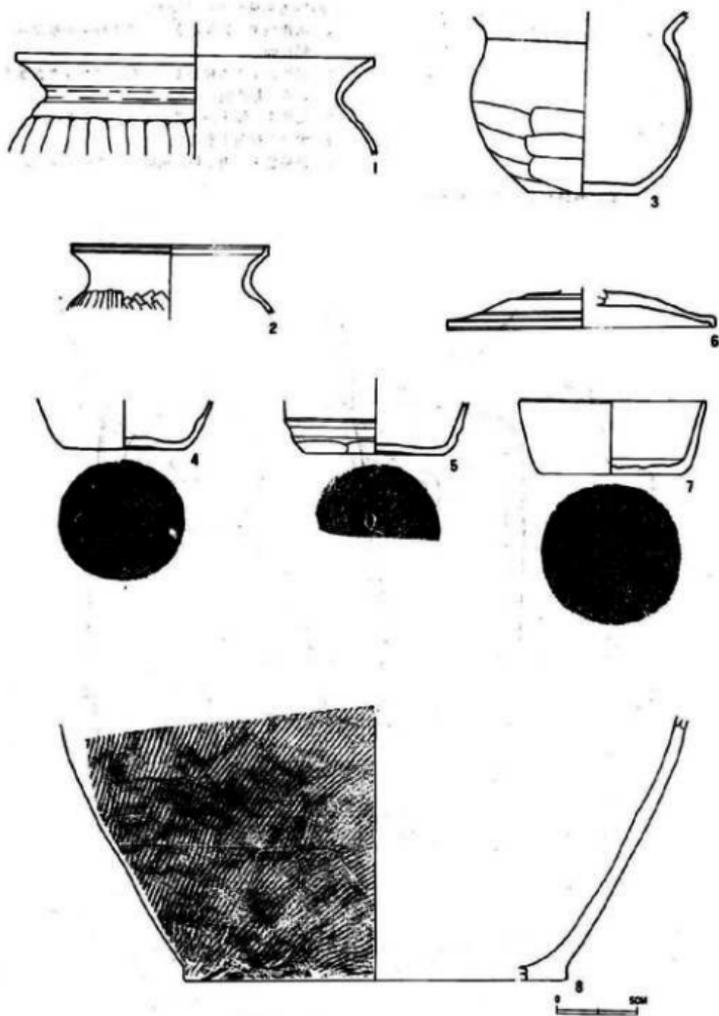


第11号住居址実測図

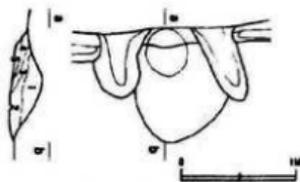
【第11号住居址土層説明】

1. 淡褐色土：耕作土。
2. 淡茶褐色土：ロームブ
ロックを多く含む、焼
土粒も含む。
3. 淡茶褐色土：2に比べ
ロームブロックが小粒。
4. 褐色土：木炭粒、焼土
粒が多く、粘性あり。
5. 淡茶褐色土：焼土ブ
ロックを多量に含む。
6. 黒褐色土：ローム粒を
少量含む、粘性あり。

（第7図）第9、11号住居址及び出土遺物実測図



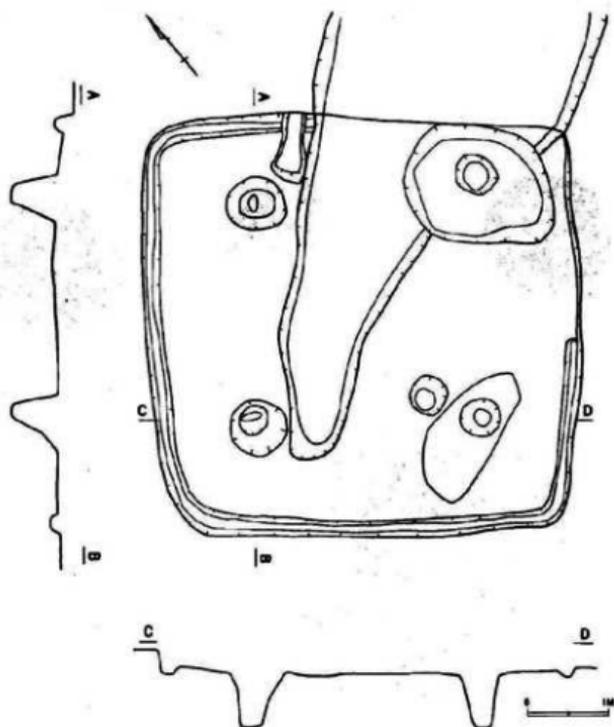
(第8图) 第11号住居址出土遗物实测图



第11号住居址カマド実測図

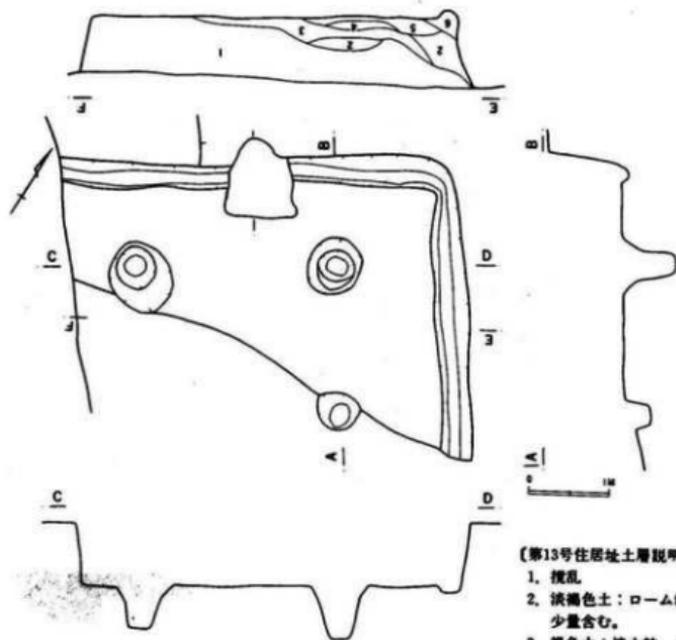
【第11号住居址カマド土層説明】

1. 淡褐色土：砂粒が多く、焼土粒を少量含み、粘性弱い。
2. 暗褐色土：砂粒が多く、焼土ブロックを多く含み、粘性弱い。
3. 褐色土：焼土粒を若干含み、灰が多い。
4. 焼土：褐色土を含む。
5. 黒褐色土：焼土粒、山砂をわずかに含む。



第12号住居址実測図

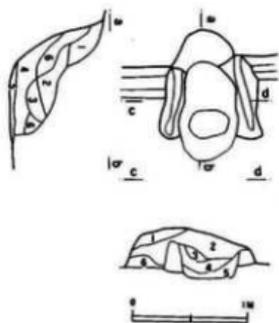
(第9図) 第11号住居址カマド、第12号住居址実測図



第13号住居址実測図

【第13号住居址土層説明】

1. 攪乱
2. 淡褐色土：ローム粒、焼土粒を少量含む。
3. 褐色土：焼土粒、ローム粒が多く、粘性が強い。
4. 褐色土：ロームブロックを含む。
5. 茶褐色土：ロームブロック、焼土粒が4より多い。
6. 褐色土：焼土粒、ローム粒を含む。

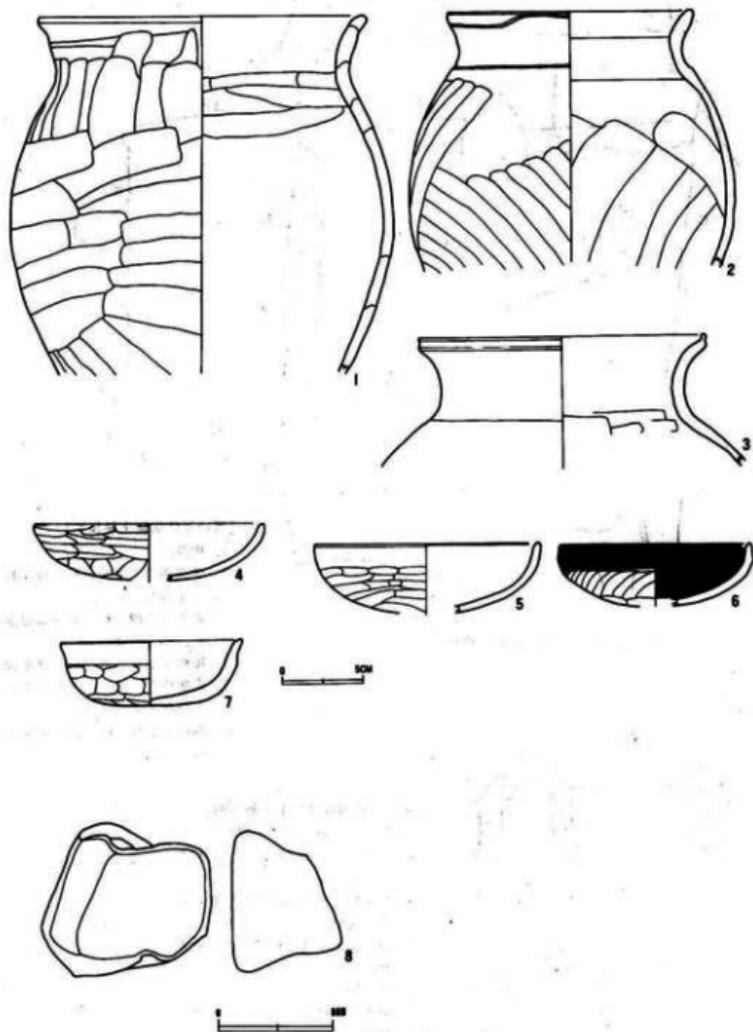


第13号住居址カマド実測図

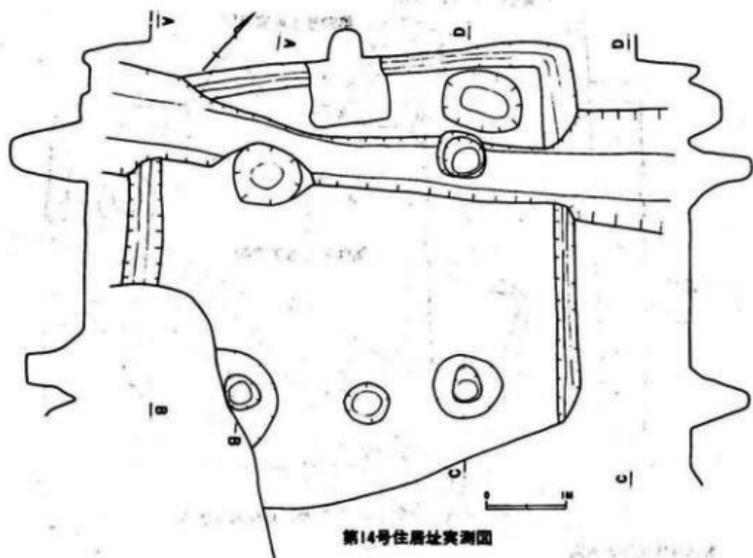
【第13号住居址カマド土層説明】

1. 褐色土：砂粒を多く含む。
2. 茶褐色土：焼土粒、ローム粒を含んでいる。
3. 粘土層：天井部の名残り砂粒を多く含む。
4. 淡褐色土：焼土粒、ローム粒を含む。
5. 焼土層。
6. 粒土、褐色土のブロックを多く含む。

(第10図) 第13号住居址実測図



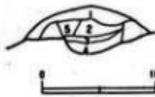
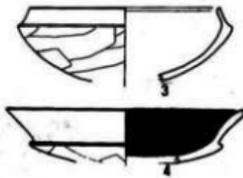
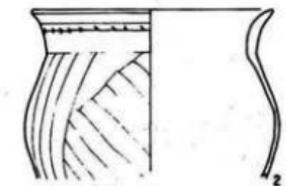
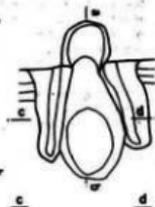
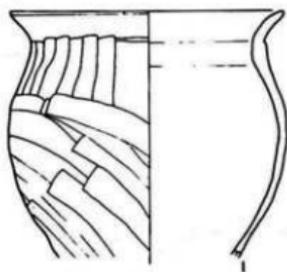
(第11图) 第13号住居址出土遗物实测图



第14号住居址実測図

【第14号住居址カマド土層
説明】

1. 褐色土：砂粒を主にして
いる。
2. 焼土を主にした層。
3. 褐色土：ローム粒、焼
土粒を多く含む。
4. 褐色土：ローム粒を含
む。
5. 褐色土：砂粒を主し
て焼土粒を含む。
6. 黒色土：古い燧炭、木
の炭?
7. 粘土褐色土のブロック
を含み、焼土粒が多い。
粘土層：天守館の名残
り、焼土、黒色土が混
じる。



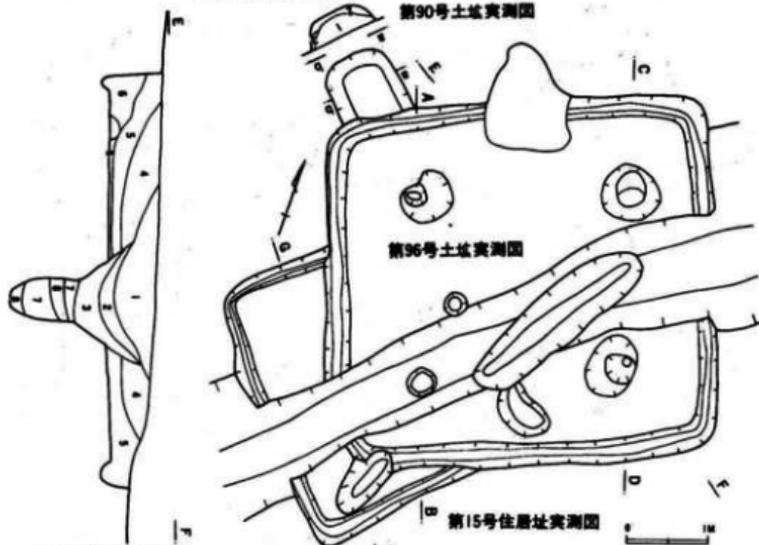
第14号住居
カマド実測図

(第12図) 第14号住居址及び出土遺物実測図

【第90号土坑土層説明】

1. 茶褐色土：ロームブロック、ローム粒が多い。
2. 茶褐色土：1に比べロームブロック、ローム粒が少ない。
3. 褐色土：ローム粒を含む。

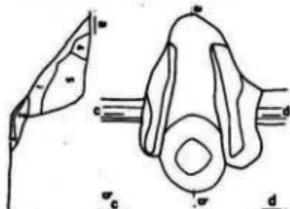
第90号土坑実測図



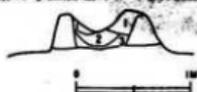
第18号住居址実測図

【第5号層(1-3)第96号土坑(4-7)第15号住居址土層図】

1. 褐色土：本炭粒、焼土粒を含む。
2. 褐色土：1にロームブロックの風化したものを含む。
3. 褐色土：2よりもロームブロック、焼土粒が多い。
4. 茶褐色土：5に比べローム粒、焼土粒が少ない。
5. 茶褐色土：ローム粒、ロームブロック、焼土粒が多い。
6. 粘土粒、焼土粒が多い。
7. 黄褐色土：ロームブロックを主体にした層。
8. 黄褐色土：7より粒子が細かいロームブロックを主にしてている。
9. 褐色土：ローム粒が多く、粘性が強い。



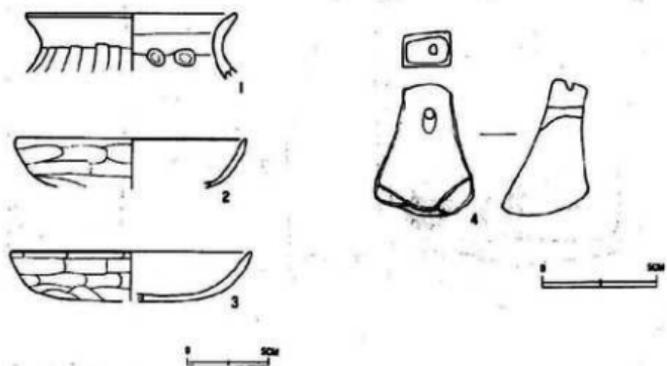
第15号住居址カマド実測図



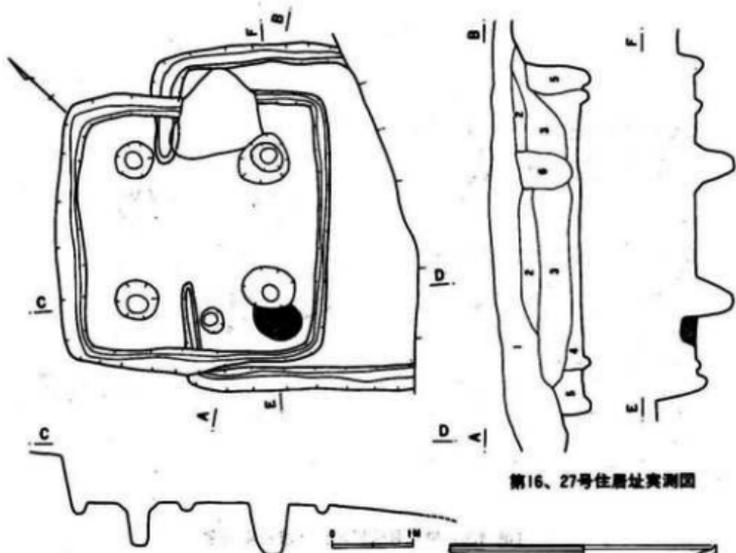
【第15号住居址カマド土層説明】

1. 褐色土：天井板が崩落した粘土が多い土層。
2. 褐色土：焼土、焼土ブロックを含みサラサラしている。
3. 山砂が多く、ソテテが崩落したもの。
4. 天井板の残存部。
5. 褐色土：砂粒、ロームブロック、ローム粒、焼土粒を含む。

(第13図) 第15、18号住居址、第90、96号土坑実測図



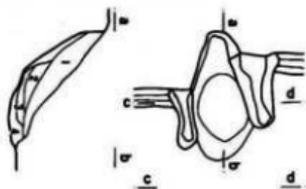
(第14图) 第15号住居址出土遺物実測図



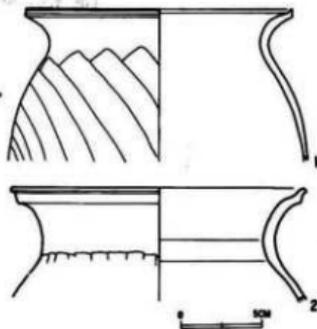
第16、27号住居址実測図

〔第16号、第27号住居址土層説明〕

1. 黄土
2. 茶褐色土：焼土粒、ローム粒を多く含む。
3. 茶褐色土：ロームブロックが多い。焼土粒、粘土粒、炭化物が多い。
4. 褐色土：ローム粒が3より粒子が小さく、焼土粒、炭化物も少ない。
5. 淡茶褐色土：粘土出自の砂粒を多く含む。
6. 褐色土：焼土粒をわずかに含む。

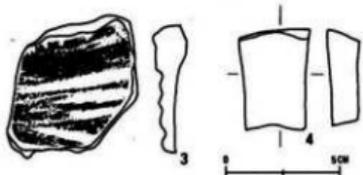
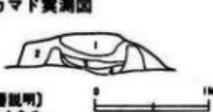


第16号住居址カマド実測図



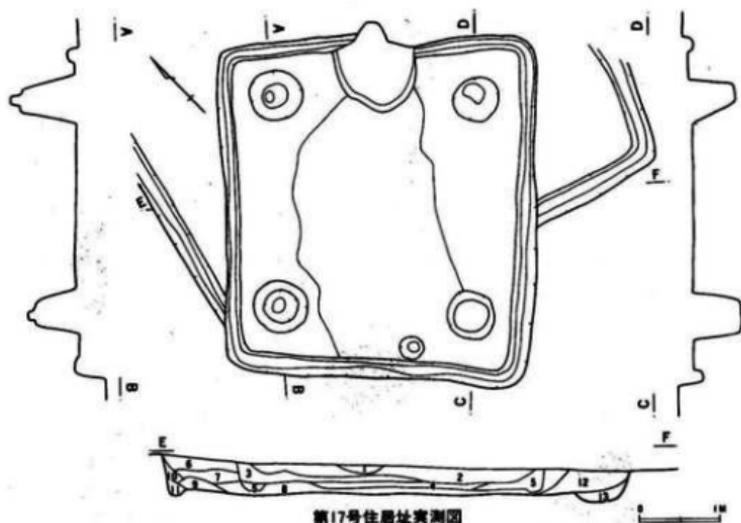
〔第16号住居址カマド土層説明〕

1. 褐色土：粘土粒を多く含む、焼土粒を含む。
2. 焼土粒、焼土ブロックの層。
3. 褐色土：焼土粒を若干含む。
4. 褐色土：ローム粒、ロームブロックを若干含む。



第16号住居址出土遺物

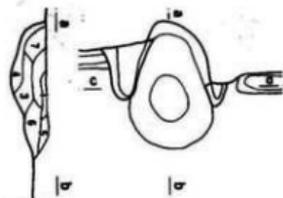
〔第15図〕第16、27号住居址及び出土遺物実測図



第17号住居址実測図

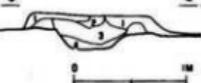
〔第17号、19号住居址土層説明〕

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 暗褐色土：焼土粒が多く、粘性が強い。 2. 暗褐色土：ローム粒が多く、焼土粒が少ない。 3. 褐色土：ローム粒が少ない。 4. 黄褐色土：第17号住居址の粘床。 5. 褐色土：ロームブロックが多い。 6. 暗褐色土：焼土粒が目立たず、ローム粒が多い。 | <ol style="list-style-type: none"> 7. 褐色土：ロームブロックが多い。 8. 暗褐色土：ロームブロックの風化したもの。 9. 褐色土：粘性はなく、ローム粒が少ない。 10. 褐色土：ロームブロックを含む。 11. 黒褐色土：粘性があり、焼土粒を含む。 12. 黄褐色土：ロームブロックを主にした層。 13. 黄褐色土：12に焼土粒を多く含む。 |
|---|--|

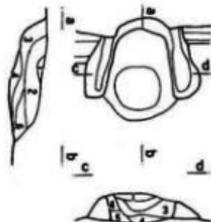


〔第17号住居址カマド土層説明〕

1. 褐色土：砂粒が多い。
2. 砂を主にした層：焼土ブロックが多い。
3. 砂と粘土を主にして焼土粒が多い。
4. 淡褐色土：ロームブロックを主にする。
5. 粘作土
6. 褐色土：ローム粒、焼土粒を含む。
7. 褐色土：焼土粒が多く、ロームブロック粒土粒をおずかに含む。



第17号住居址カマド実測図

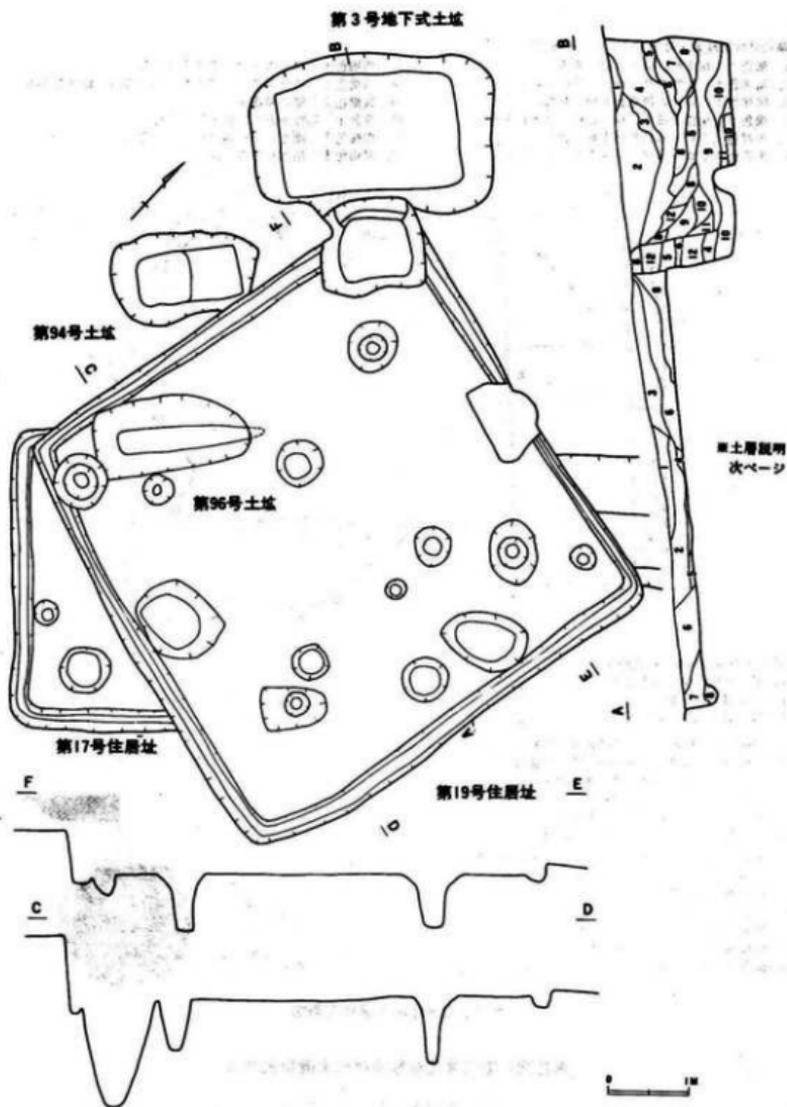


第19号住居址カマド実測図

〔第19号住居址カマド土層説明〕

1. 褐色土：焼土粒を含み、砂粒が多い。
2. 山砂を主体にした層：天井の崩れたもの。
3. 褐色土：1よりも焼土が多い。
4. 焼土：砂を主体にしている。
5. 黒褐色土：ローム粒、焼土粒を含む。
6. 黒褐色土：山砂の焼けたブロックを含む。

(第16図) 第17号住居址、第19号住居址カマド実測図

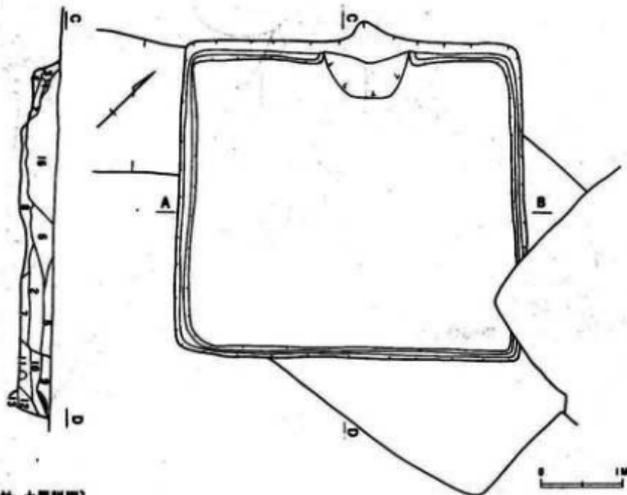


(第18图) 第19号住居址第3号地下式土坑发掘图

【第19号住居址第3号地下式土壇土層説明】

1. 褐色土：粘土粒、ローム粒やや多い。
2. 暗褐色土：粘性あり、ローム粒が多い。
3. 暗褐色土：ローム粒をわずかに含む。
4. 褐色土：粘性が強く、ローム粒、粘土粒を含む。
5. 黒褐色土：ローム粒をわずかに含む。
6. 黒褐色土：ロームブロックをわずかに含む。

7. 黒褐色土：ロームブロックを多く含む。
8. 暗褐色土：ロームブロックをわずかに含み、粘性がある。
9. 黄褐色土：壁の崩落土。
10. 褐色土：粘性があり、粘土粒を含む。
11. 黒褐色土：硬く、ロームブロックを含む。
12. 黒褐色土：粘土粒を多く含む。



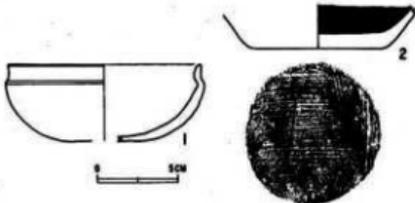
【第20・21号住居址、土層説明】

第20号住居址カマド (1-4)

住居址土層 (5-9)

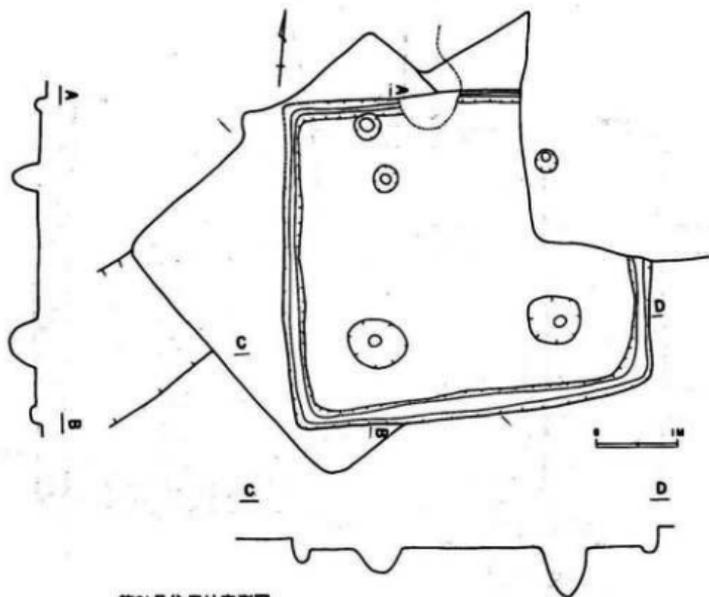
第21号住居址土層 (10-15)

1. 暗褐色土：砂粒、ローム粒を多く含む。
2. 暗褐色土：砂粒、ローム粒、焼土を含む。
3. 淡褐色土：焼土ブロックが多く含まれる。
4. 黒褐色土：ローム粒を含む。
5. 褐色土：ローム粒、焼土粒を含む。
6. 黄褐色土：ロームブロックを主に焼土を含む。
7. 黄褐色土：ロームブロックが多く、木炭粒を含む。
8. 黒褐色土：粘性が強く、ロームブロックが多い。
9. 暗褐色土：砂粒を少量含む。
10. 褐色土：ローム粒、ロームブロックを含む。
11. 黒褐色土：ローム粒、砂粒を含む。
12. 暗褐色土：ローム粒、焼土粒を含む。
13. 褐色土：ローム粒、ロームブロックをわずかに含む。

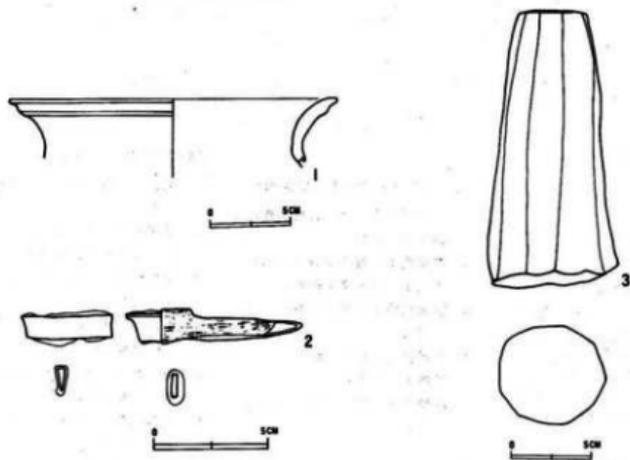


第20号住居址出土遺物実測図

(第19図) 第20号住居址及び出土遺物実測図

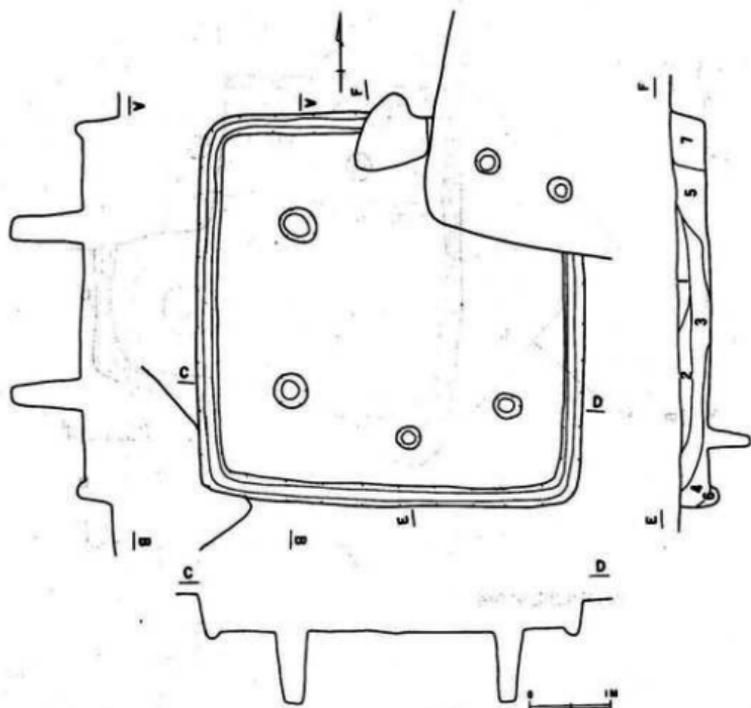


第21号住居址実測図

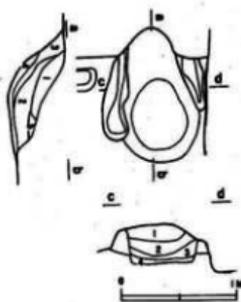


第21号住居址出土遺物実測図

(第20図) 第21号住居址及び出土遺物実測図



第22号住居址実測図



第22号住居址カマド実測図

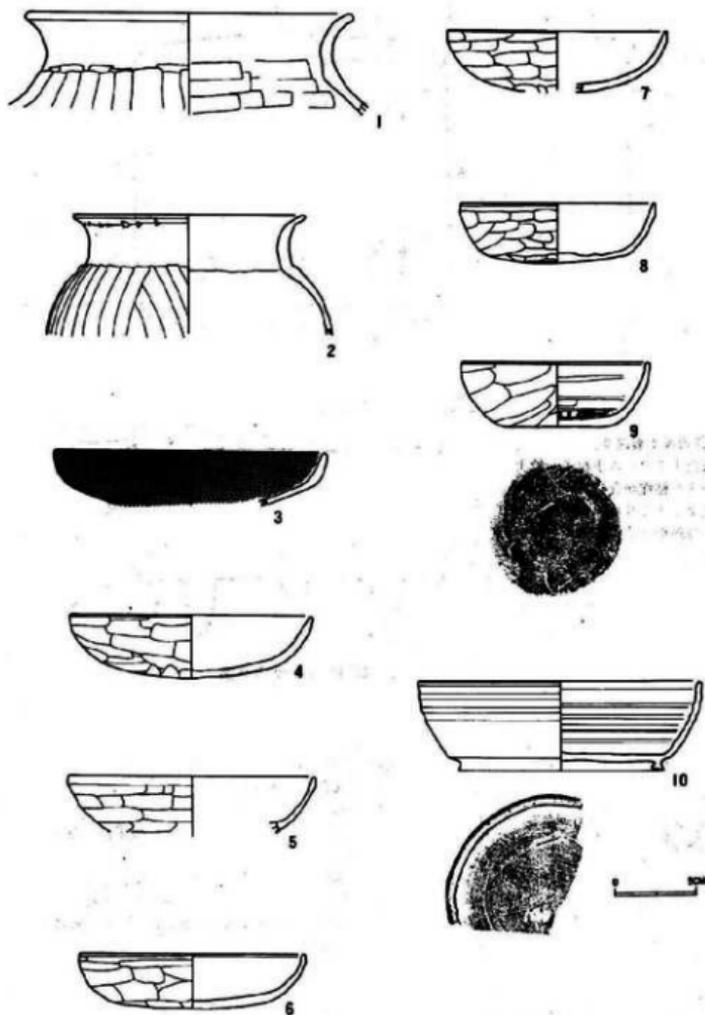
【第22号住居址カマド土層説明】

1. 淡茶褐色土：ローム粒、焼土粒を多く含む。
2. 淡褐色土：焼土ブロック砂粒、黒色土ブロックを含む。
3. 淡茶褐色土：焼土粒をわずかに含む。
4. 黄褐色土：ローム粒を主として焼土粒を含む。
5. 砂粒の多い粘土：天井部が崩れたもの。

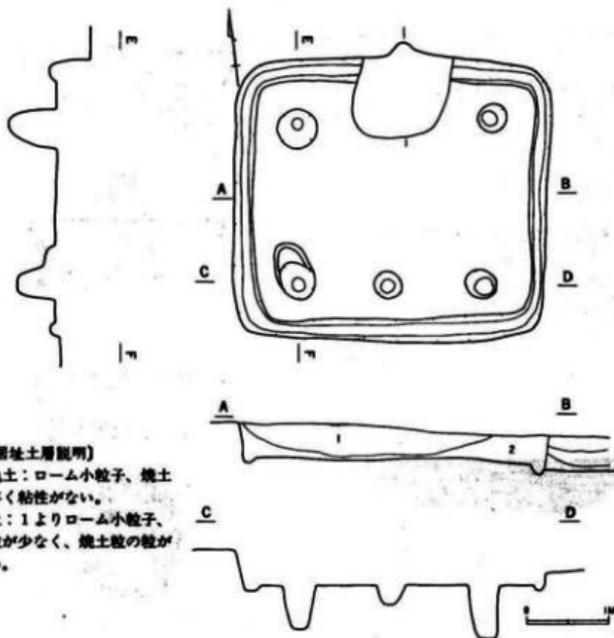
【第22号住居址土層説明】

1. 褐色土：焼土粒、ローム粒を含む。
2. 茶褐色土：ローム粒が目立つが3よりローム粒は少ない。
3. 茶褐色土：ロームブロックを多く含む。
4. 褐色土：2に似ているがローム粒は少ない。
5. 褐色土：カマドより流れ出した粘土、砂粒を含む。
6. 黄褐色土：ロームブロックを主にした層。
7. カマドのソデ。

(第21圖) 第22号住居址実測図



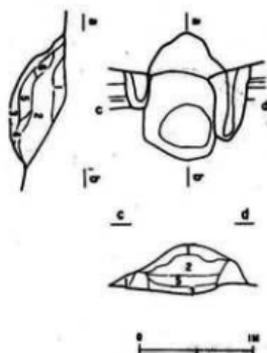
(第22图) 第22号位层址出土遗物实测图



【第23号住居址土層説明】

1. 茶褐色土：ローム小粒子、焼土粒が多く粘性がない。
2. 褐色土：1よりローム小粒子、焼土粒が少なく、焼土粒の粒が大きい。

第23号住居址実測図

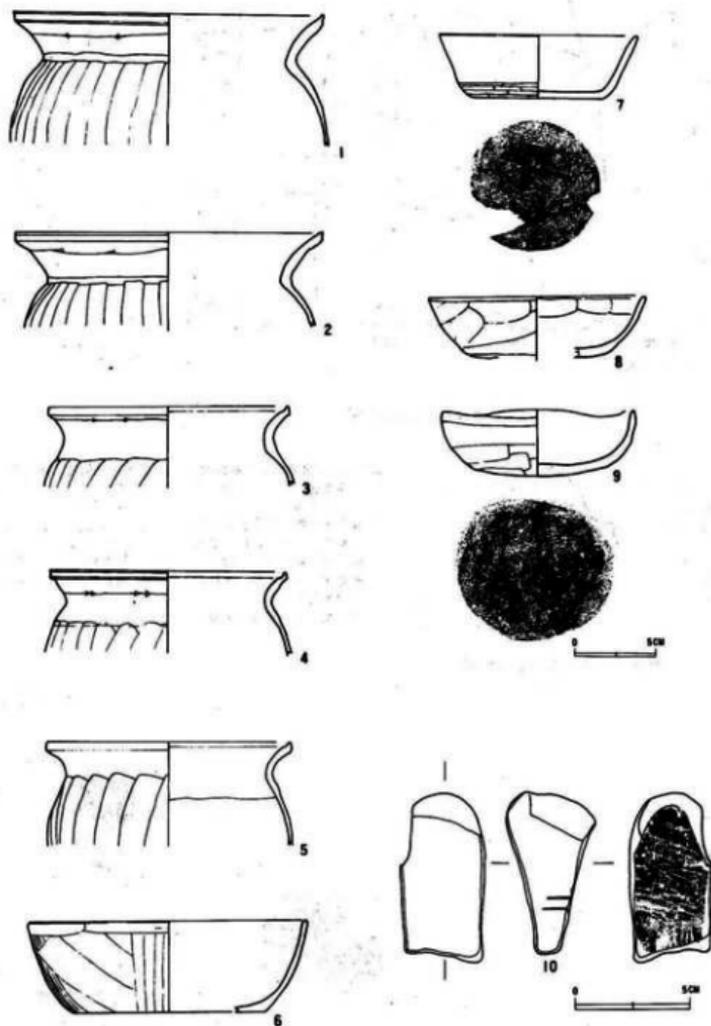


第23号住居址カマド実測図

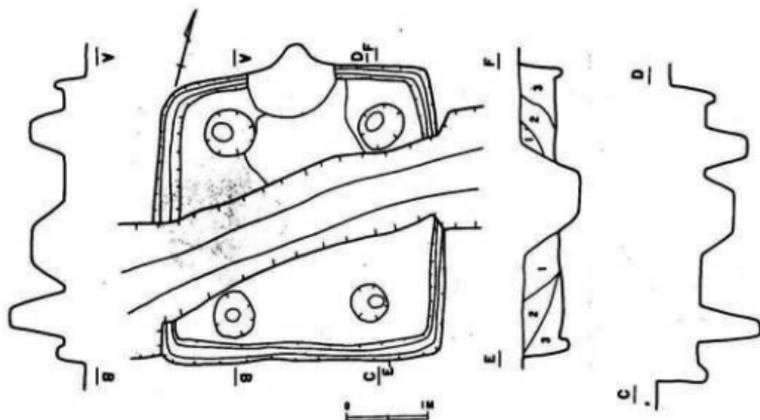
【第23号住居址カマド土層説明】

1. 茶褐色土：砂粒を多く含む。
2. 茶褐色土：1より砂粒が多い。
3. 褐色土：茶褐色土のブロック、焼土粒を含み、やわらかい。
4. 茶褐色土：焼土粒、ローム粒、砂粒を多く含む。
5. 茶褐色土：焼土ブロック、灰を多く含む。
6. 赤褐色土：焼土ブロックを主体にして、砂粒を多く含む。

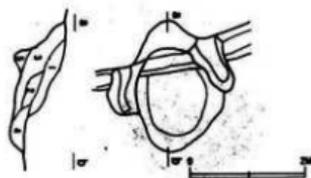
(第23図) 第23号住居址実測図



(第24图) 第23号住居址出土物实测图



第24号住居址実測図



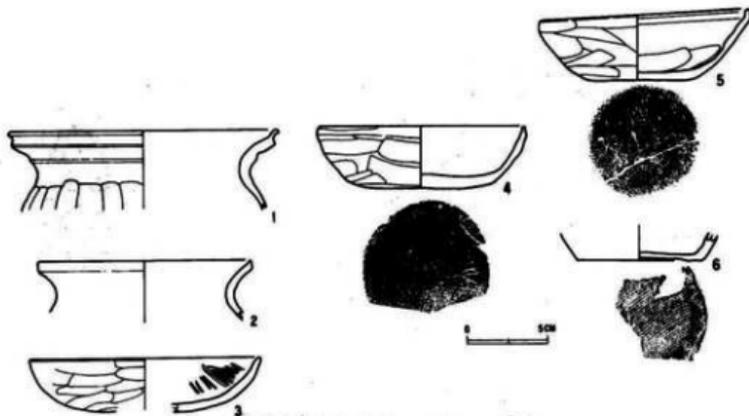
第24号住居址カマド実測図

【第24号住居址カマド土層説明】

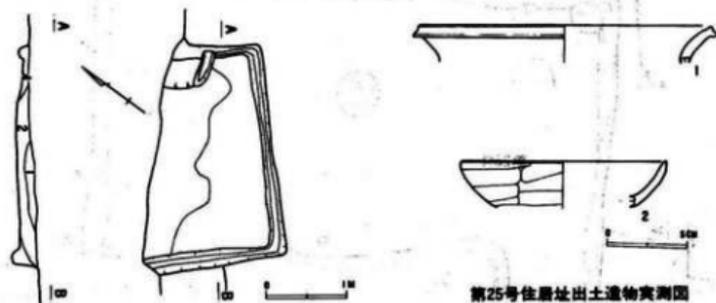
1. 淡茶褐色土：ローム焼土ブロックを含む。
2. 褐色土：焼土粒を多く含む。
3. 茶褐色土：ローム粒、焼土粒、木炭粒を多く含む。
4. 褐色土：ローム粒、木炭粒を少量含む。
5. 淡茶褐色土：周溝内土層。

【第24号住居址土層説明】

1. 褐色土：ローム粒、焼土粒を若干含む。
2. 茶褐色土：焼土粒、ローム粒を多く含む。
3. 淡茶褐色土：ローム粒、焼土ブロックを含む。



(第25図) 第24号住居址及び出土物実測図



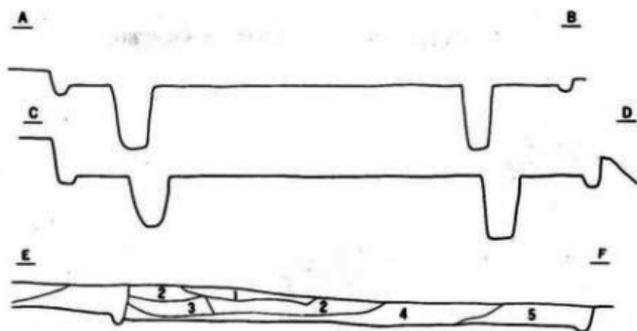
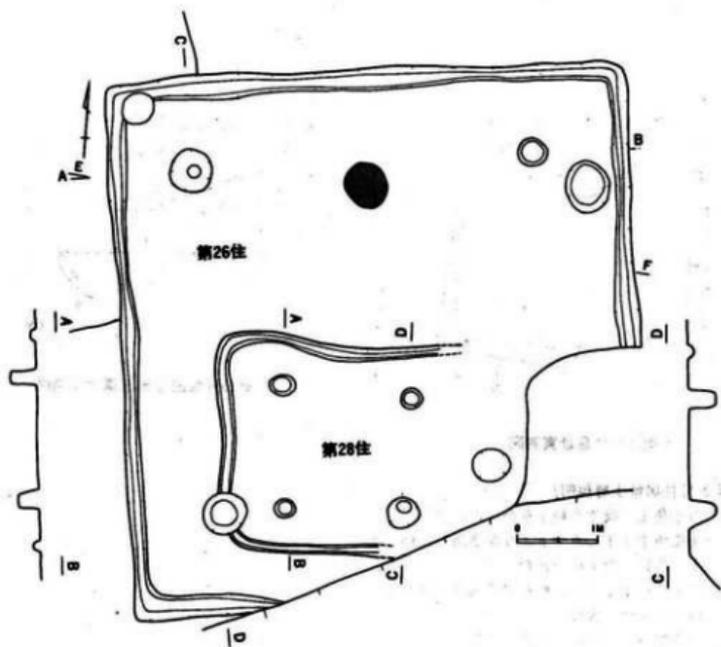
第25号住居址出土遺物実測図

第25号住居址実測図

〔第25号住居址土層説明〕

1. 茶褐色土：炭化小粒子をわずかに含む。
2. 茶褐色土：1にカマドよりかき出した粘土、炭粒、焼土粒を含む。
3. 淡茶褐色土：ローム粒を多く含み、焼土粒もわずかに含む。
4. 淡茶褐色土：砂粒、粘土粒が多い。

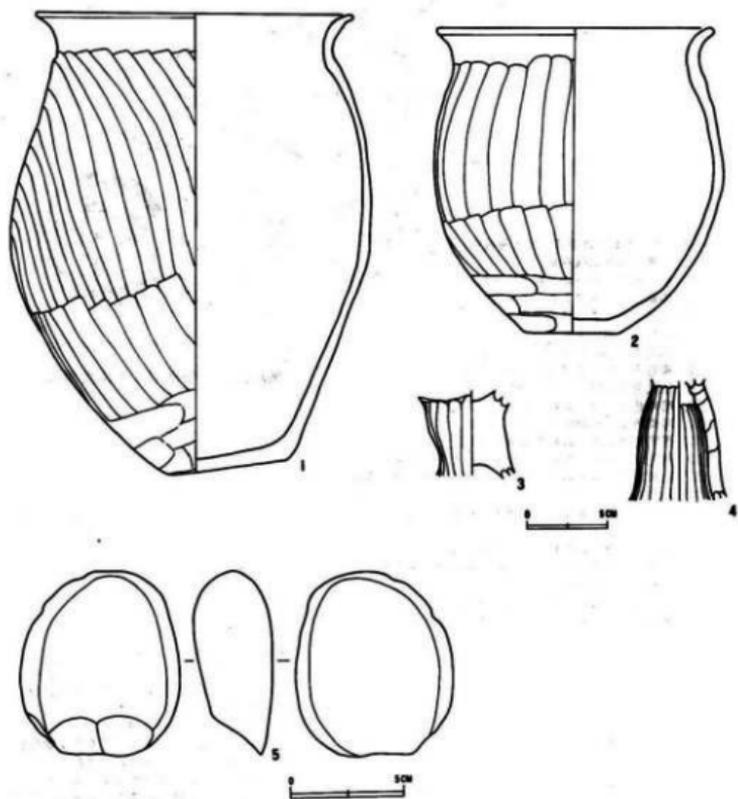
(第26図) 第25号住居址及び出土遺物実測図



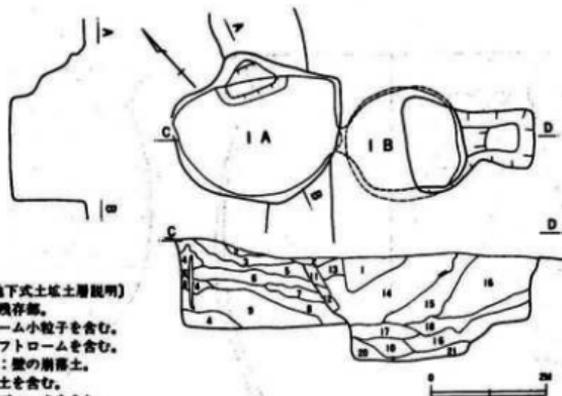
【第26号住居址土層説明】

1. 褐色土：ローム粒が多く、粘性がない。
2. 茶褐色土：黒色土のブロックが風化したもの。
3. 黄褐色土：ロームブロックが風化している。
4. 茶褐色土：ロームが風化したものが多く、焼土粒をわずかに含む。
5. 淡茶褐色土：ローム粒は4より少なく、焼土粒は4より多い。

(第27図) 第26・28号住居址実測図



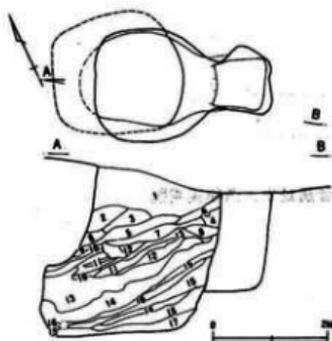
(第28图) 第26号住居址出土遗物实测图



【第1A・1B号地下式土坑層説明】

1. 砂層：天井部残存部。
2. 暗褐色土：ローム小粒子を含む。
3. 黒褐色土：ソフトロームを含む。
4. 砂のブロック：壁の崩落土。
5. 褐色土：黒色土を含む。
6. 褐色土：砂のブロックを含む。
7. 褐色土：ロームブロック砂粒を含む。
8. 淡褐色土：ローム粒を含む。
9. 暗褐色土：ローム粒をわずかに含む。
11. 暗褐色土：砂粒のブロックを含む。
12. 黒褐色土：ローム粒を多量に含む。
13. 褐色土：ロームブロックが風化したものが多い。
14. 暗褐色土：ロームブロック、砂粒のブロックを多量に含む。
15. 砂の多い層：天井部の崩落土、褐色土が多く含まれる。
16. 褐色土：ロームブロックを含む。
17. 暗褐色土：砂のブロック、炭化物の粒子を含む。
18. 暗褐色土：粘性が強い。
19. 暗褐色土：砂粒と砂のブロックを含む。
20. 褐色土：ロームブロックを少量含む。

第1A、1B号地下式土坑実測図

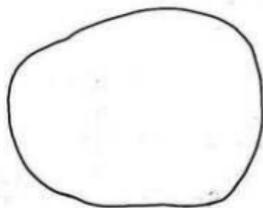
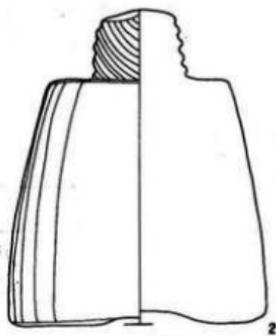
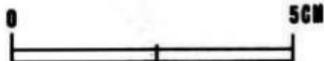
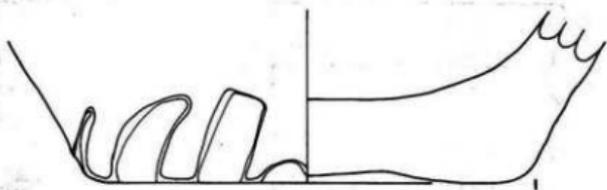


第2号地下式土坑実測図

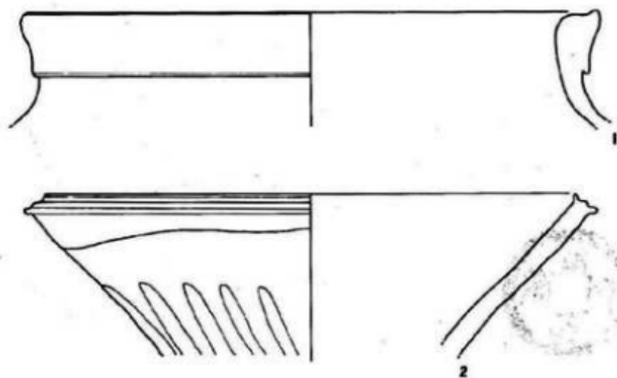
【第2号地下式土坑層説明】

1. 暗褐色土：褐色土のブロックを含む。
2. 暗褐色土：砂粒ブロックを多く含む。
3. 暗褐色土：壁の崩落土。
4. 砂層：壁、天井の崩落土。
5. 暗褐色土：砂粒のブロックを少量含む。
6. 暗褐色土：砂をまばらに含む。
7. 褐色土：砂粒のブロックを多く含む。
8. 砂粒の層：壁の崩落土、暗褐色土を含む。
9. 暗褐色土：砂粒を多く含む。
10. 砂粒のブロックが多い。
11. 淡褐色土：天井の崩落土砂粒が多い。
12. 砂のブロックが多い層。
13. 砂粒が多く、暗褐色土を含む。
14. 天井部崩落土：褐色土の鉄分を多く含む。
15. 暗褐色土：砂のブロックを多く含む。
16. 暗褐色土：砂のブロックを少量含む。
17. 褐色土：砂のブロックが多く含まれる。

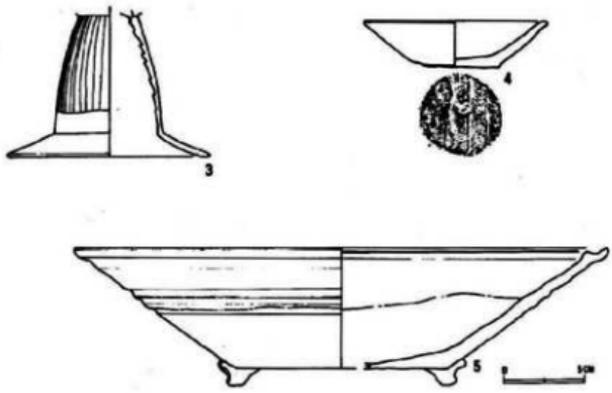
(第29圖) 第1A、1B、第2号地下式土坑実測図



(第30圖) 第1B号地下式土坑出土遺物の実測圖

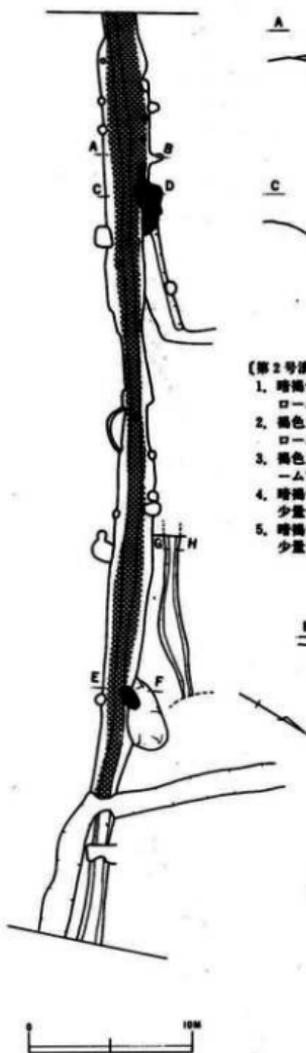


第 1 B 地下式土坑出土遺物實測圖



第 3 号地下式土坑出土遺物實測圖

(第31圖) 第 1 B、第 3 号地下式土坑出土遺物實測圖



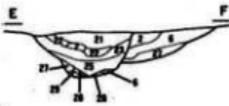
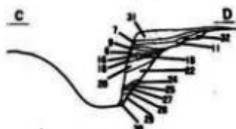
【第2号深土层G-H説明】

1. 暗褐色土：粘性があり、ローム粒、ロームブロックを含む。
2. 褐色土：粘質が強く、ローム粒、ロームブロックを含む。
3. 褐色土：極めて硬いローム粒、ロームブロックを含む。
4. 暗褐色土：極めて硬くローム粒を少量含む。
5. 暗褐色土：若干軟弱でローム粒を少量含む。

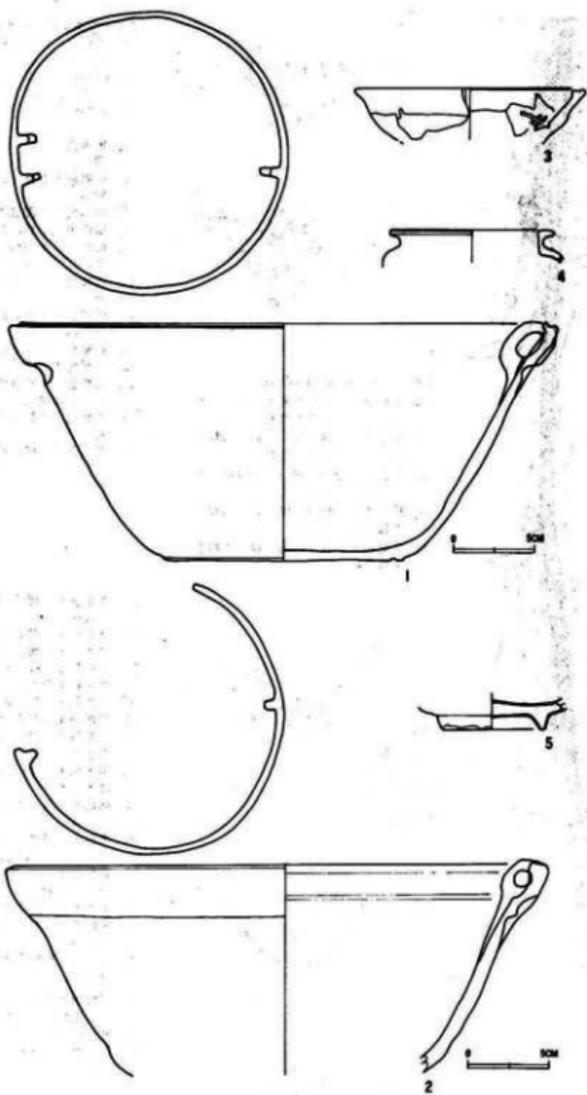
【第3号深土层A-F説明】

1. 黒色土：ローム粒、焼土粒を少量含む。
2. 暗褐色土：ローム粒、ロームブロックを含む。
3. 暗褐色土：ローム粒が多く軟らかい。
4. 黒褐色土：ローム粒が少なく粘性弱い。
5. 暗褐色土：ロームブロックを含み軟弱。
6. 暗褐色土：混土層。
7. 暗褐色土：貝は含まず硬い。
8. 褐色土：きわめて硬いローム粒が多い。
9. 黄褐色土：きわめて硬いロームの層。
10. 暗褐色土：きわめて硬くローム粒が多い。
11. 暗褐色土：11と同じだが軟らかい。
12. 黒褐色土：硬く、ローム粒が多い。
13. 暗褐色土：粘性強く、ローム粒をおおむね含む。
14. 暗褐色土：軟らかくローム粒を含む。
15. 黄褐色土：硬い粘土の層。

16. 黄褐色土：硬くローム層と粘土との互層。
17. 暗褐色土：硬くローム粒を含み、粘土との互層。
18. 暗褐色土：硬くローム粒は少なく、焼土粒を含む。
19. 黒褐色土：18の軟質部。
20. 黒褐色土：20よりさらに軟らかい。
21. 暗褐色土：ローム粒が多く焼土粒を含む。
22. 黒褐色土：ローム粒は少なく粘性はある。
23. 褐色土：ローム粒、ロームブロックが多い。
24. 黒色土：粘性がありローム粒、ロームブロックを含む。
25. 黄褐色土：ローム粒を主として褐色土を含む。
26. 褐色土：ローム粒が多い。
27. 黄褐色土：ローム粒の層、やや軟らかい。
28. 黒色土：粘性があり、ローム粒は少ない。
29. 黄褐色土：硬く、ローム粒を多く含む黒色土を含む。
30. 混土層
31. 暗褐色土：きわめて硬くローム粒が多い。



(第32図) 第2、3号溝実測図



(第33图) 第3号溝出土遺物実測図



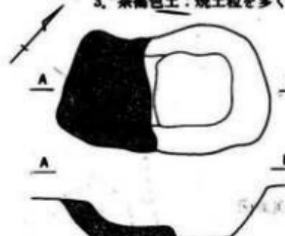
第1号土坑実測図

1. 茶褐色土：2に比べ粘土粒が少ない。
2. 淡茶褐色土：粘土ブロックを多く含む。
3. 茶褐色土：焼土粒を多く含む。



第22号土坑

第21号土坑

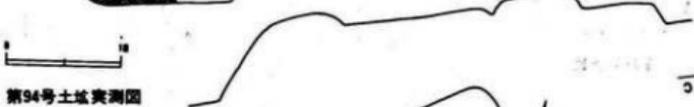


【第22号土坑土層説明】

1. 淡茶褐色土：ロームブロックを多く含む。
2. 淡茶褐色土：1よりもロームブロックの粒子が大きい。

【第21号土坑土層説明】

1. 黄褐色土：ロームブロックを主として褐色土が混じる。
2. 黄褐色土：ロームブロックの粒子1に比べて大きい。

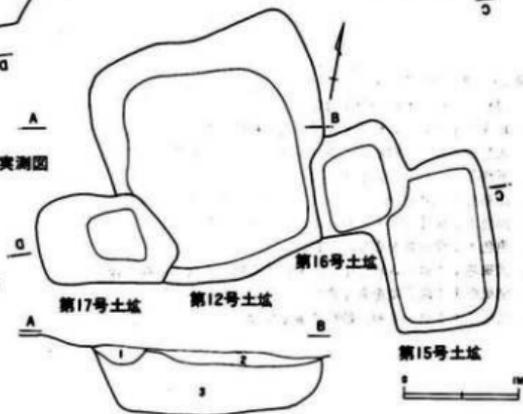


第94号土坑実測図

第12、15、16、17号土坑実測図

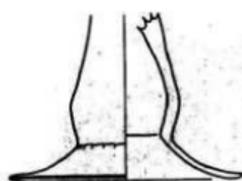
【第12号土坑土層説明】

1. 擾乱
2. 褐色土混じりの砂層
3. 淡黄灰色土：山砂を多量に含む。

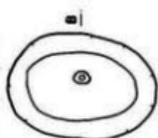


第12号土坑断面図

(第34図) 第1、12、15、16、17、21、22、94号土坑実測図



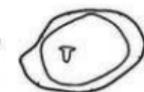
第70号土坑出土遺物実測図



第89号土坑



第70号土坑



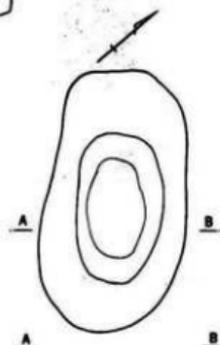
第69号土坑



第69、70、88、89号土坑実測図



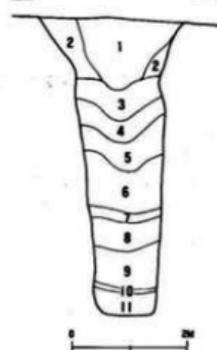
第88号土坑



第92号土坑実測図

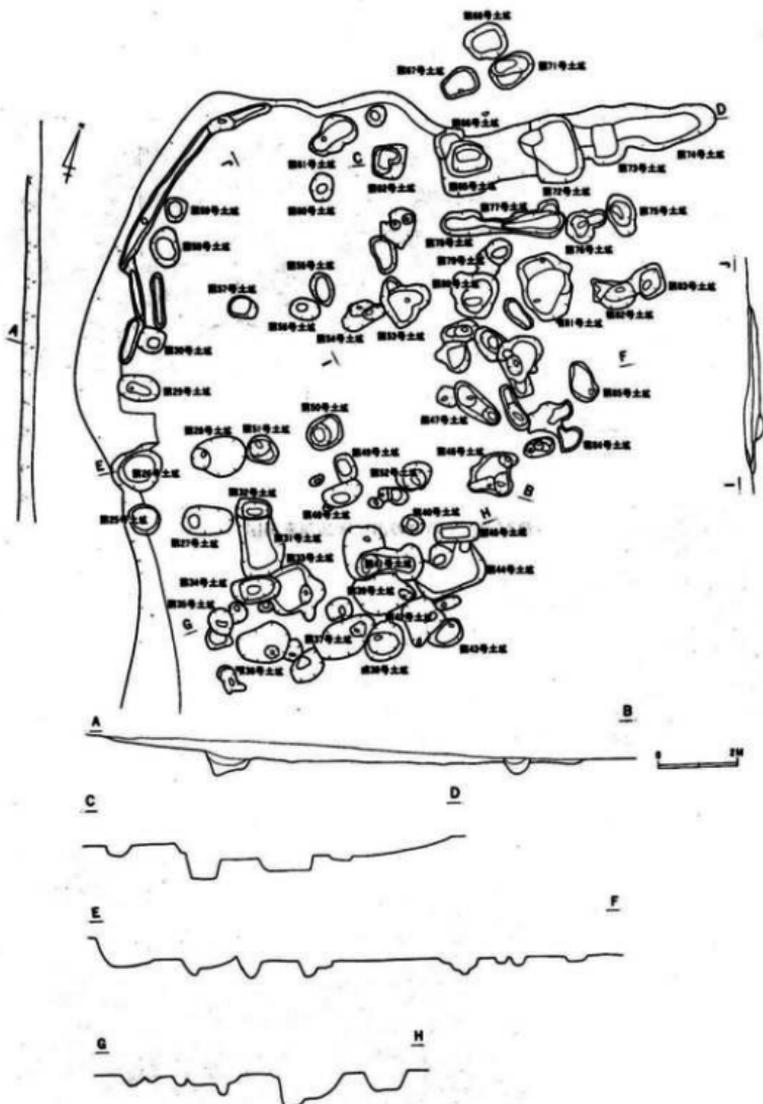
〔第92号土坑土層説明〕

1. 黒色土：ローム粒が少量含む。
2. 暗褐色土：ローム粒子を多量に含む粘性あり。
3. 褐色土：ローム粒が多くロームブロックを少量含む。
4. 黒褐色土：ローム粒を多量含む。
5. 淡褐色土：粘性がなく、ロームブロックを多量に含む。
6. 褐色土：粘性がなく、ロームブロックを多量に含む。
7. 黒色土：炭化物を多量に含む。
8. 黄褐色土：ローム粒を中心に少量の褐色土を含み粘性が強い。
9. 黒褐色土：炭化粒を多く含む。
10. 淡褐色土：ローム粒、砂粒を多く含む。

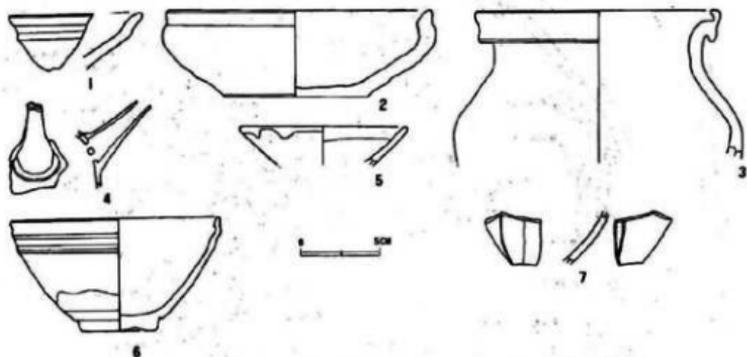


第92号土坑実測図

(第35図) 第69、70、88、89、92号土坑
及び70号土坑出土遺物実測図



第36图 东偏土坑群平面图



(第37圖) その他の出土陶器類実測図



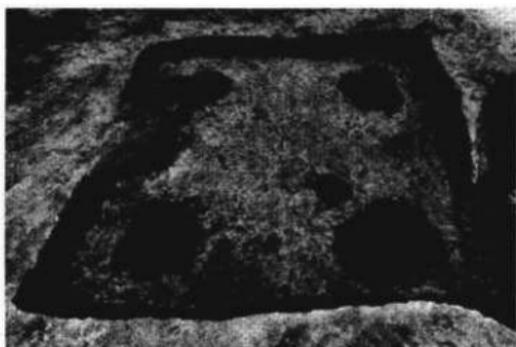
遺跡遠景(東から望む)



(北から望む)



調査風景



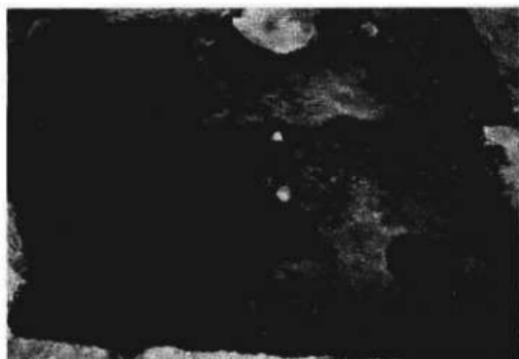
第1号住居址



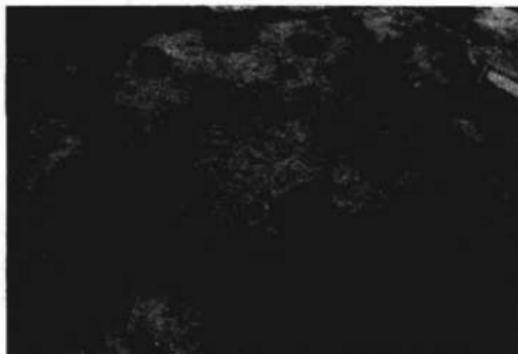
第22号住居址



第24号住居址



第20号住居址



第17・19号住居址



第26号住居址



第1号溝



第3号溝



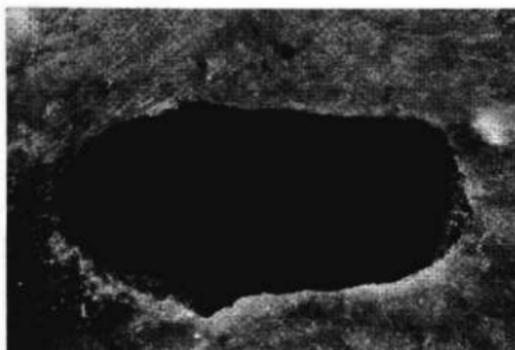
第5号溝

第1A·1B号地下式土埧

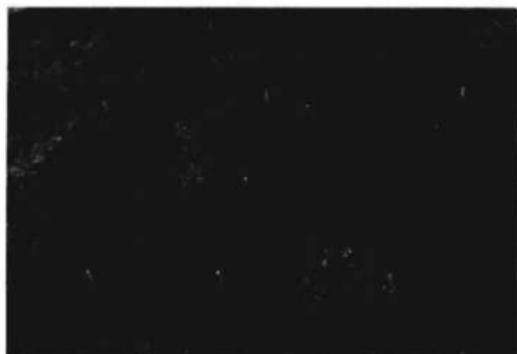


第21、22号土埧

第
92
号
土
埧



西側土壇群（1及び9～19号）



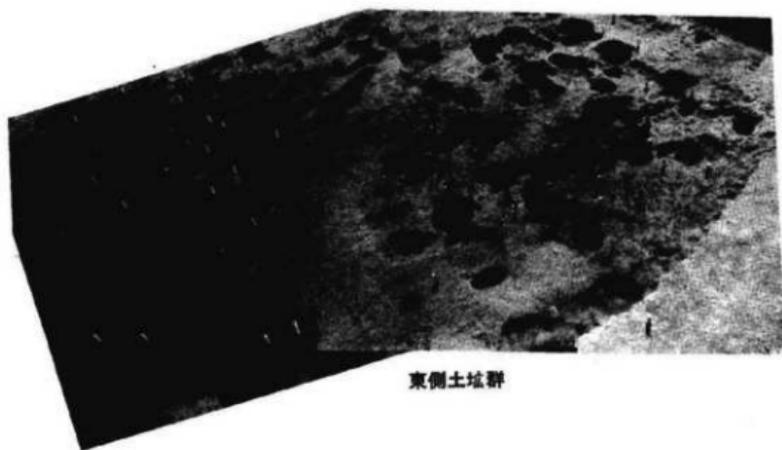
第88号土壇



第69・70号土壇

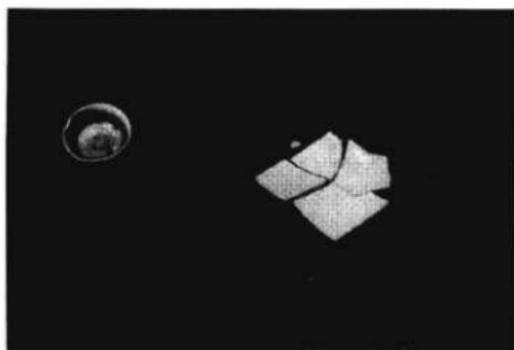


第97号土壇

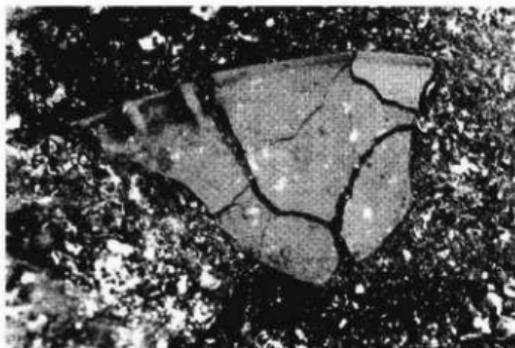


東側土壇群

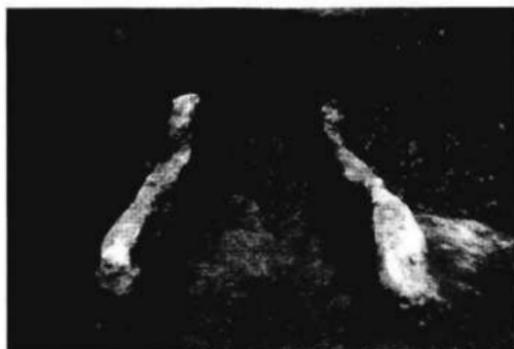
第11号住居址遺物出土状態



第3号溝貝層遺物出土状態



第13号住居址カマド



千葉県匝瑳郡光町
八石田遺跡発掘調査報告

平成元年3月26日 発行

編 集 光町八石田遺跡調査会
発 行
